

大規模冬季スポーツイベント調査

過去の冬季オリンピック・パラリンピック大会調査

1998年／長野オリンピック・パラリンピック

2002年／ソルトレイクシティオリンピック・パラリンピック

2006年／トリノオリンピック・パラリンピック

2010年／バンクーバーオリンピック・パラリンピック

平成25年8月30日

dentsu

株式会社 電通北海道

目次

《冬季オリンピック 1998～2010》	過去4大会概要	2
	運営費	3
	施設開発費	4

— 各大会資料 詳細 索引 —

1998 長野	概要	N-1
	収支	N-2
	マーケティング	N-3
	寄付	N-4
	チケット	N-5
	施設開発費	N-6
	施設	N-7
	大会時スタッフ	N-8
	言語対応	N-9
	宿泊	N-10
	輸送	N-11
	医療・ドーピングコントロール	N-12
	警備・保険	N-13
	アクレディテーション(許可証)センター	N-14
	広報	N-15
	環境	N-16
	2002 ソルトレーク	概要
収支		S-2
マーケティング		S-3
チケット		S-4
部門別予算		S-5
部門補足		S-6
施設		S-7
部門別人員		S-8
宿泊		S-9
輸送		S-10
医療・ドーピングコントロール		S-11
警備・保険		S-12
環境		S-13
メディア		S-14
その他		S-15
2006 トリノ	概要	T-1
	収支	T-2
	部門別運営予算	T-3
	マーケティング	T-4
	チケット	T-5
	施設開発	T-6
	施設	T-7
	大会時スタッフ	T-8～9
	宿泊・輸送	T-10
	医療・ドーピングコントロール	T-11
	警備・保険・ブランド保護	T-12
	広報・教育文化プログラム	T-13
	その他	T-14
	2010 バンクーバー	概要
収支		V-2
マーケティング		V-3
チケット		V-4
施設開発		V-5
宿泊・輸送		V-6
医療・ドーピングコントロール		V-7
広報		V-8
警備		V-9
メディア		V-10
部門別トピックス		V-11～12
誘致の道のり		V-13
サステナビリティ(継続可能性)		V-14
その他		V-15

《過去4大会冬季オリンピック概要》

オリンピック

大会名	長野	ソルトレークシティ	トリノ	バンクーバー
開催国	日本	アメリカ合衆国	イタリア	カナダ
開催年	1998	2002	2006	2010
開催期間	2月7日～22日	2月8日～24日	2月10日～26日	2月12日～28日
開催日数	16日間	17日間	17日間	17日間
開催都市 (周辺地区)	長野市 軽井沢町 山ノ内町 野沢温泉村 白馬村 飯綱高原	ソルトレーク・シティ ウエストバレー・ シティキアンズ オグデン ハンツビル パーク・シティ ディアバレーリゾート ミッドウェイ プロボ	トリノ、ピネロロ プラジェラート バルドネッキア ソーズ・ドル セストリエーレ チェサーナ・サン・ シカリオ	バンクーバー リッチモンド ウイスラー ウエスト・バンクーバー (サイプレス・マウンテン)
施設数	15	12	16	10
競技数	7	7	7	7
種目数	68	78	84	86
参加NOC数	72	77	80	82
参加選手数	2,305	2,531	2,633	2,632
入場許可証発行数	84,370	80,000	85,540	96,428
メディア(放送)	5,743	6,069	6,772	7,000
メディア(放送以外)	2,586	2,661	2,691	3,286
チケット売上枚数	1,275,000	1,525,000	900,000	1,490,000
観戦者数(参考)	1,275,529	2,147,292	—	—
運営スタッフ	11,487	17,570	4,865	3,500
運営ボランティア	32,579	18,565	34,421	25,000
運営他人員(業者、キャスト等)	21,964	19,764	2,244	—

*観戦者数は、施設ごとの観客数の合算(長野は開会式・閉会式を含む)

*数値は報告書内でも異なることがある

*枠内「—」は報告書に記載なし

*ソルトレークの「スタッフ」には軍、シークレットサービス、FBIなどのセキュリティ人員10,800人を含む

*ソルトレークはビジターサービス(案内)を外部委託

*運営スタッフ・ボランティアに関しては、パラリンピックを含むか不明

パラリンピック

大会名	長野	ソルトレークシティ	トリノ	バンクーバー
開催国	日本	アメリカ合衆国	イタリア	カナダ
開催年	1998	2002	2006	2010
開催期間	3月5日～14日	3月7日～16日	3月10日～19日	3月12日～21日
開催日数	10日間	10日間	10日間	10日間
競技数	5	4	5	5
種目数	34	—	58 ※	64 ※
参加NOC数	32	36	39	44
参加選手数	571	416	486	506
入場許可証発行数	—	—	—	26,931
チケット売上枚数	—	—	162,116	230,000
観戦者数	151,346	211,790	162,974	230,000
運営ボランティア	—	—	2,295	6,500

*※印は報告書で「メダル競技数」となっているため参考値

*枠内「—」は報告書に記載なし

《運営費》

億円

大会名		長野	ソルトレーク	トリノ	バンクーバー
組織委運営費		1,139.0	1,630.0	1,794.5	1,605.5
収入総額		1,139.0	1,630.0	1,794.5	1,605.5
収入内訳	放映権料	354.2	555.5	592.8	352.8
	国内スポンサー	187.5	619.4	508.1	586.3
	ライセンス	16.1	31.3	32.1	43.5
	チケット	85.1	229.5	130.0	213.0
	政府/地方自治体助成	116.0	—	—	160.0
支出総額		1,139.0	1,559.8	1,794.5	1,605.5
支出内訳 (長野のみ)	管理(人件費・管理費)	144.0			
	運営費	50.0	保険、デザインコミッション、海外会議参加費		
	企画・連携	59.0	大会広報、メイン・プレスセンター管理費		
	マーケティング	216.0	競技会場、選手村、医療ドレッシング検査ボランティア経費		
	広報・メディア対応	184.0	開会式・閉会式、文化プログラム		
	情報・通信システム	159.0	競技施設、選手村、IBC、MPC		
	競技・会場運営	207.0	メディア・ウィレッジなどの施設の設備		
	設備	74.0	宿泊、観客・スタッフの輸送、警備		
	宿泊・輸送・警備	45.0			
	プロモーション	994.0			
小計	1.0				
予備費					

IBC:国際放送センター MPC:メイン・プレスセンター

【別記】トリノ・バンクーバー支出内訳

億円

億円

トリノ		億円
技術	18%	323.0
通信・イメージ	6%	107.7
マーケティング・スポンサー	6%	107.7
他(人件費等)	17%	305.1
インフラ	13%	233.3
放送	6%	107.7
施設管理	4%	71.8
輸送・調達	4%	71.8
その他運営費	26%	466.6
計		1,794.5

バンクーバー		億円
マーケティング・広報		142.9
スポーツ・競技運営		245.4
サービス・競技運営		616.1
技術		385.5
人事関連		110.8
財務		98.1
為替差損		6.8
計		1,605.5

※トリノは報告書で「割合(%)」のみ記載。これに応じて積算

*枠内「—」は報告書に記載なし

*マーケティングの数値はIOC資料による。そのため、各組織委レポートと異なる場合がある。

*長野・トリノは報告書発行時点で「見込値」となっている。

*ソルトレークの収入総額は支出内訳についての記載なし。運営費及び黒字額の記載から推計

参考:運営収支

億円

大会名	長野	ソルトレーク	トリノ	バンクーバー
黒字額	4.5	7.0	—	—

*長野の黒字額は独立して記載されており、収支との関連づけなし

【為替レートについて】

*円換算は開催年のレートによる。ただし長野は、公式レポート内で言及されているUS\$=115円を摘要

各大会開催年のレート:

長野 1米ドル=115円

ソルトレーク 1米ドル=125.4円

トリノ 1ユーロ=146.0円, 1米ドル=116.3円

バンクーバー 1カナダドル=85.2円, 1米ドル=87.8円

《施設開発費》

①競技施設

億円

大会名	長野			ソルトレーク			トリノ			バンクーバー		
	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費
アイスホッケー	10,104	新	191.0	10,500	—	—	12,500	新	151.1	19,300	—	—
	6,000	新	91.0	8,400	—	—	5,400	—	—	6,800	新	32.6
スキー(アルペン)	—	既	—	22,500	—	—	6,160	改	15.9	7,700	新	26.7
				16,000	—	—	7,300	改	19.8			
				13,400	—	—	6,800	新	18.8			
スキー(ジャンプ)	45,000	新	86.0	15,000	—	—	8,055	新	51.0	12,000	新	104.4
スキー(クロスカントリー)	20,000	新	70.0	15,200	—	—	5,400	新	30.1	ジャンプと同施設		
スキー(フリースタイル)	—	既	—	スキー(アルペン)と共用			7,900	改	18.8	12,000	新	15.0
スノーボード	—	既	—	スキー(アルペン)と共用			6,763	改	2.1	—	—	—
スピード・スケート	10,000	新	348.0	5,236	—	—	8,250	新	108.4	7,600	新	54.3
フィギュア・スケート ショートトラック	7,351	新	142.0	17,500	—	—	8,000	新	82.8	14,200	改	16.1
バイアスロン	20,000	新	37.0	—	—	—	4,700	新	38.5	ジャンプと同施設		
ボブスレー	10,000	新	101.0	—	—	—	4,400	新	125.2	12,000	新	89.4
リュージュ	ボブスレーと共用			—	—	—	ボブスレーと共用			ボブスレーと共用		
スケルトン	—	—	—	—	—	—	ボブスレーと共用			ボブスレーと共用		
カーリング	—	既	—	2,000	—	—	2,000	改	24.3	5,600	新	35.3
その他施設、計画降雪等	—	—	—	—	—	—	—	—	142.2	—	—	—
計	—	—	1066.0	—	—	—	—	—	829.1	—	—	373.7

*「分類」は、新:新規建設、改:既存施設を改築、既:既存施設

*枠内「—」は記載なし

*トリノ「スキー(アルペン)」では一部「スノーボード」と共用

②非競技施設

億円

大会名	長野			ソルトレーク			トリノ			バンクーバー		
	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費	席数	分類	開発費
選手村	—	—	—	—	—	—	—	新	355.2	—	新	57.5
メディア村	—	—	—	—	—	—	—	新	278.6	—	—	—
開会式・閉会式会場	※50,000	—	※9.5	50,000	—	—	—	—	—	—	—	10.3
メディア・センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.6
その他	—	—	—	20,000	—	—	—	—	—	—	—	53.7
施設全般費用・利息等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.4
計	—	—	—	—	—	—	—	—	633.8	—	—	140.5

*「分類」は、新:新規建設、改:既存施設を改築、既:既存施設

*枠内「—」は記載なし

*「※」数値はNAOCの関与しない参考値として記載あり

*バンクーバー大会の「施設開発予算」と「開発費計」の差額分として「施設全般」に関わる費用及び「利息・割賦割増金」が記載されている

施設開発費 計(①競技施設+②非競技施設)

億円

大会名	長野	ソルトレーク	トリノ	バンクーバー
施設開発費	1066.0	—	1,463.0	514.1

*枠内「—」は記載なし

施設開発予算と負担内訳

億円

大会名	長野	ソルトレーク	トリノ	バンクーバー
施設開発予算	1,066.0	—	2,679.3	514.1
負担内訳	政府	515.0	—	1,726.6
	州、県	296.0	—	247.1
	地元自治体	255.0	—	—

*枠内「—」は記載なし

*トリノ大会は、施設開発費①+②合計金額が「施設開発予算」と一致しない

組織委員会公式資料一覧

《1998 長野》

報告書タイトル	ページ数	主な内容
オフィシャル・レポートⅠ 計画・サポート	306	開催までの道のり、組織、ファイナンス、関連プログラム、他
オフィシャル・レポートⅡ 栄光の16日間	341	日程別トピックス、式典、運営、ボランティア
オフィシャル・レポートⅢ 競技結果・参加者	356	競技結果、参加者一覧

《2002 ソルトレーク》

報告書タイトル	ページ数	主な内容
オフィシャル・レポート	506	大会概要、ファンクション(部所)別詳細
内なる炎	437	競技別ハイライト

《2006 トリノ》

報告書タイトル	ページ数	主な内容
ポートレート	355	イベント別ハイライト
持続可能性レポート	215	大会概要、運営詳細
最終レポート	354	経緯、ファンクション別詳細

《2010 バンクーバー》

報告書タイトル	ページ数	主な内容
誘致レポート	54	誘致経緯、コンセプト
知識レポート	87	大会概要、ファンクション別詳細
持続可能性レポート	139	環境、社会責任、先住民、経済効果等
財務報告	28	

資料総ページ数 3,178

※各大会で、同じ項目の数字がレポートによって異なる場合があります、その際は詳しい記述があるものを優先した。
 ※各大会で比較可能な数値がとれないものについては、大会別のシート参照。

IOC資料

オリンピック・マーケティング・ファクト・ファイル

IOC / IPC 公式ホームページ

注: 各大会比較のため、各大会公式レポートで数字が揃わない部分は一部IOC/IPCの資料を利用した。
 IOC資料の数字と各大会資料の数字では、一部異なる部分がある。

NAOC:長野オリンピック組織委員会

《オリンピック》

開催期間	1998/2/7-22 (16日間)	
競技数	7 競技	
種目数	68 種目	
参加者人数	選手	2,305人
	大会役員	2,333人
参加国・地域	NOC数	72

《パラリンピック》

開催期間	1998/3/5-14 (10日間)	
競技数	5 競技	
参加選手	571 人	
参加国・地域	NOC数	32

*NOC:国・地域のオリンピック委員会

《その他数字で見る長野五輪》

組織委員会立ち上げ資産		100 百万円
内訳	JOCから	60 百万円
	長野市から	40 百万円
会場観客		1,442,700 人
表彰式観客		167,200 人
メディア		8,329 人
運営人員		44,066 人
うち ボランティア		32,579 人
警察官		6,000 人
文化プログラム支援ボランティア		15,000 人
施設メンテナンス担当契約スタッフ		964 人
ユースキャンプ参加者		51 ヶ国 217 人
期間内に各施設で提供された食事		628,000 食
食事担当スタッフ		1,142 人
うち コアスタッフ		554 人
大会スタッフの食事		546,000 食
内訳	弁当	455,000 食
	現地調理	91,000 食
配布された記念メダル		19,000 個以上
配布された水引		16,800 本
配布されたテレホンカード		29,497 枚
聖火リレー	日数	33 日
	国内距離	1,162 km
	聖火ランナー	6,901 人

※NAOC本部下に60の施設別チームあり

※パートタイムの業者や料理学校生徒が補助

※選手、役員、IOC関係者、メディア、ユースキャンプ参加者に配布

※選手、役員、IOC関係者、メディアに配布

※市民から寄付されたテレホンカードを5枚ずつ選手や

ユースキャンプ参加者に配布

収支 (通貨レート:US\$ =115円)

《運営費》

収入 113,900百万円

収入内訳		金額	備考
基幹収入	テレビ放映権	35,400	放映権料の60%
	マーケティング	31,300	TOP IV スポンサー、ゴールド・スポンサー、サプライヤー等合計の6/7
	チケット販売等	10,500	
	小計	77,200	
その他収入	地方自治体助成(人件費)	6,600	長野県、長野市などからNAOCへ派遣された職員給与は派遣元が負担
	地方自治体助成(運営費)	5,000	長野県、長野市が負担
	宝くじ	10,000	
	施設使用料	4,000	メディア・ヴィレッジ、スポンサー・ヴィレッジの施設利用費、および、IBC(国際放送センター)、MPC(メイン・プレスセンター)のプライベート・オフィス・スペース使用料
	寄付	9,700	競馬場、日本競輪協会、日本財団、スポーツ振興資金財団 長野県スキーリフト協会/ゴルフ場連盟他
	その他	1,400	
	小計	36,700	
合 計		113,900	

※1998年7月時点の推定値

※最終決算の記載なし。予算の記載から推定

支出 113,900百万円

支出内訳		金額	備考
管理(人件費・管理費)		14,400	
運営費	企画・連携	5,000	保険、デザインコミッション、海外会議参加費
	マーケティング	5,900	
	広報・メディア対応	21,600	大会広報、メイン・プレスセンター管理費、国際信号制作費
	情報・通信システム	18,400	
	競技・会場運営	15,900	競技、会場、選手村、医療、ドーピング検査、ボランティア経費 開会式・閉会式、文化プログラム
	設備	20,700	競技施設、選手村、IBC(国際放送センター)、MPC(メイン・プレスセンター)、メディア・ヴィレッジなどの施設の設備
	宿泊・輸送・警備	7,400	宿泊、観客・スタッフの輸送、警備
	プロモーション	4,500	
	小計	99,400	
予備費		100	
合 計		113,900	

※1998年7月時点の推定値

※最終決算の記載なし。予算の記載から推定

*国際信号: 競技の映像に観客の声援などの自然音声と、選手名や競技タイムなどのグラフィックスを合わせたもの

黒字額 4,500百万円 (収支との関連記載なし)

※商品、チケットの売り上げが予想を上回った

※国際信号の制作費が抑えられた

黒字分の活用 ・オリンピック・ムーブメントの推進

・日本の冬期スポーツを振興するレガシー(遺産)の創造

マーケティング (通貨レート:US\$ =115円)

《マーケティング内容》		百万円	百万US\$
内 容		金 額	参考値
TV放映権料		35,400	307.8
スポンサーシップ・プログラム		31,300	272.2
内訳	スポンサーシップ	28,000	243.5
	ライセンスング	1,600	13.9
	その他	1,700	14.8
計		66,700	580.0

※JOC分を除く

《スポンサーシップ・プログラム》

TOPスポンサー	11 社
----------	------

Coca-Cola, IBM, VISA, Panasonic, Xerox, John Hancock, McDonald's, UPS, Eastman Kodak, TIME, Samsung
(コカ・コーラ、IBM、VISA、パナソニック、ゼロックス、ジョン ハンコック、マクドナルド、UPS、イーストマン コダック、TIME、サムスン)

TOPプログラム: 4年ごと
(IOCおよびオリンピック委員会、組織委員会のスポンサー権)

《国内スポンサー・プログラム》

ゴールド・スポンサー	8 社
サプライヤー	18 社
計	26 社

《ライセンスング》

国内ライセンスング・プログラム	190 社
	2,464 製品
海外ライセンスング・プログラム	4 社

※スノーレッツ・ハウス(公式グッズストア)を設置

寄付

日本政府からの資金を受けずに活用した寄付の総額： 18,700百万円

《寄付の主な内訳》

種別	内容	金額
宝くじ	グリーンジャンボ 1996～3回	8,000
	長野県ナンバーズ1995-1998	2,000
その他寄付	非営利スポーツ基金、経団連など	1,950
	長野県ゴルフ場連盟(1995/4-1997/12) 64のゴルフ場で、プレーヤーからの寄付¥50にゴルフ場が¥50をプラス	288
	長野県スキーリフト協会(1996-1998)	295
	スキー客募金	1
	長野県パチンコ協会募金(1996/10-)	18
	ライオンズクラブ 164000会員	163
	ロータリークラブ 132000会員(1998/1)	100
	企業、団体、個人(1998/7時点)	1,840
	長野県経営者協会、長野商工会議所など(NAOCの依頼により)	116
	競馬(1995-1997)	130
	競輪(1995-1998)	1,020
	バイクレース(1997/10)	189
	ボートレース(1996-1997)	364
	全国市町村振興協会、長野市町村振興協会 (1997)	700
	スポーツ振興基金(1992-1997)	200
	ジャパンセンター	40
	ミスノスポーツ振興協会(1997)	20

チケット

《チケット販売状況》

チケット売上枚数	1,149,615 枚	※発売数の89.4%
チケット収入	85 億円	※当初見込みは50億円

※子どもは全競技チケット半額。子ども用に10万枚確保。

《個別販売状況》

競技・イベント	価格(大人)	発売数	販売数	売却率	観客数
開会式	21,000-36,750	38,000	38,000	100.0%	48,937
閉会式	15,750-31,500	39,000	39,000	100.0%	49,257
アルペン	3,150-8,400	177,200	166,092	93.7%	128,211
クロスカントリー	2,100-4,200	146,000	82,680	56.6%	82,770
ジャンプ	6,300-10,500	96,000	96,000	100.0%	102,641
ノルディック複合(ジャンプ)	7,350	73,000	73,000	100.0%	76,544
フリースタイル・スキー	2,100-5,250	37,000	37,000	100.0%	37,225
スノーボード	2,100-5,250	43,000	31,561	73.4%	26,006
スピード・スケート	3,150-10,500	93,000	93,000	100.0%	118,555
フィギュア・スケート	8,400-31,500	52,000	52,000	100.0%	72,831
ショートトラック	3,150-5,250	16,000	16,000	100.0%	21,952
アイスホッケー	2,100-31,500	330,700	295,802	89.4%	369,718
ボブスレー	2,100	35,000	35,000	100.0%	37,336
リュージュ	2,100	39,000	31,040	79.6%	30,461
パイアスロン	2,100-3,150	54,000	46,340	85.8%	33,475
カーリング(含タイブレーク)	2,100-3,150	17,100	17,100	100.0%	39,610
計		1,286,000	1,149,615	89.4%	1,275,529

※カーリングのタイブレークはチケットなし(無料)のため、発売数・販売数にはカウントされないが、観客数には加算されている

※観客数は、オリンピック・ファミリーや大会関係者含む

《払い戻し》

払い戻しチケット枚数	59,101 枚
払い戻し金額	2.15 億円

※アルペン8つを含む11で払い戻し

※競技が中止となり、期間中に実施されなかった場合のみ払い戻しが原則だが、悪天候による変更が相次いだため、変更があった分は払い戻し可とした

《その他 販売状況》

国内向け販売数	610,000 枚	
期間別販売数		
1997/2/7-	予約販売	366,000 枚
	応募数	287,302 件
		6,460,282 枚
		307,798 枚
		74,746 枚
		58,202 枚
		予約実売
		予約されたが期限までに支払なし
		売れ残り
1997/6/2-	前売り開始	
1997/10/21-11/28	追加販売	325,000 枚
1998/1/15-	最終販売	

■子ども料金は半額だったが、海外販売分は確認ができないため、全て大人用を販売。現地で子どものパスポートを提示すると差額が返却された(413件 海外販売分の0.5%)

■子供用チケットで入場しようとした大人が差額を徴収されたケース(2,044件)

■子供用チケットの最終比率は総販売数の11.6%

施設開発費

※予算・経費は、組織委の資料のため、原則として組織委関与分のみ(以下同様)

予 算 106,600百万円

《施設開発費拠出者》 百万円

拠出者	金額
政 府	51,500
県	29,600
地元自治体	25,500
計	106,600

《競技施設別開発費》 百万円

会場名	種目	席数	建設費	土地代	計
八方尾根スキー場	アルペン滑降、スーパーG、複合				
東館山スキー場	アルペンスキー大回転				
焼額山スキー場	アルペンスキー回転、スノーボード大回転				
スノーハープ	ノルディックスキークロスカントリー	20,000	4,600	2,400	7,000
白馬ジャンプ競技場	ジャンプ、ノルディック複合	45,000	7,200	1,400	8,600
飯綱高原スキー場	フリースタイルスキー				
かんばやしスノーボードパーク	スノーボードハーフパイプ				
エムウェーブ	スピードスケート	10,000	26,400	8,400	34,800
ホワイトリング	フィギュアスケート	7,351	11,500	2,700	14,200
	ショートトラック				
ビッグハット	アイスホッケー	10,104	14,300	4,800	19,100
アクアウイング	アイスホッケー	6,000	9,100	0	9,100
スパイラル	ボブスレー	10,000	9,500	600	10,100
	リュージュ				
野沢温泉村	バイアスロン	20,000	2,800	900	3,700
風越公園アリーナ	カーリング				
合 計			85,400	21,200	106,600

※ジャンプ競技場建設費内訳 ラージヒル:建設費5,800、土地900 ノーマルヒル:建設費1,400、土地500
 ※スキー場については、既存の施設をリース

参考:(NAOC関与外)

長野オリンピックスタジアム	開会式・閉会式	50,000	9,500
---------------	---------	--------	-------

施設概要

《会場施設》

(人)

施設	競技・イベント	席数	観客数	スタッフ					自衛隊
				NAOC	競技役員	ボランティア	地元自治体	計	
長野オリンピックスタジアム	開会式	50,000	48,937						
	閉会式		49,257						
八方尾根スキー場	アルペン滑降、スーパー-G、複合		59,865	25	792	974	85	1,876	
東館山スキー場	アルペンスキー大回転		35,154	11	300	295	19	625	590
焼額山スキー場	アルペンスキー回転、スノーボード大回転		49,916	16	300	536	29	881	160
スノーハープ	ノルディックスキークロスカントリー	20,000	82,770	14	410	541	41	1,006	90
白馬ジャンプ競技場	ジャンプ、ノルディック複合	45,000	179,185	17	308	575	55	955	130
飯綱高原スキー場	フリースタイルスキー		37,225	15	165	382	70	632	40
かんばやしスノーボードパーク	スノーボードハーフパイプ		9,282	11	103	296	15	425	
エムウェーブ	スピードスケート	10,000	118,555	15	112	918	53	1,098	
ホワイtring	フィギュアスケート	7,351	72,831	21	215	815	56	1,107	
ホワイtring	ショートトラック		21,952					0	
ビッグハット	アイスホッケー	10,104	256,306	16	137	1,057	54	1,264	
アクアウイング	アイスホッケー	6,000	113,412	13	同上	794	69	876	
スパイラル	ボブスレー	10,000	37,336	16	190	630	54	890	
スパイラル	リュージュ		30,461					0	
野沢温泉村	バイアスロン	20,000	33,475	14	313	436	48	811	
風越公園アリーナ	カーリング		39,610	11	88	698	85	882	
合計			1,275,529	215	3,433	8,947	733	13,328	1,010

《選手村》

規模: 19haに23建物

部屋数: 1032室 70%が3ベッドルーム

施設: レストラン、買い物、レクリエーション施設

交通: シャトルバス

レジデンシャル・ゾーン: 宿泊施設、NOCオフィス、食事施設、NOCサービスセンター、総合クリニック、フィットネスセンター、宗教センター、文化活動センター

インターナショナル・ゾーン: 銀行、郵便局、店、ディスコ(昼間映画館)、ゲームルーム、ビデオルーム、ランドリー、会議室、NAOC事務所

NOCオフィス: 選手団の規模により割り当て。通常、団長オフィス、事務室、チーム・医療担当者室、マッサージ室、会議室がある。

食事スペース: 1,000席。206,586食が提供された。

トレーニング設備: トレーニング機器 50台、男女別サウナ

《軽井沢サテライトヴィレッジ》 カーリング選手用
軽井沢スケートセンターホテルを利用

《メディアセンター》
メイン・プレスセンター(MPC)
サブ・プレスセンター(SPC) 各競技場
MPCとSPCのプライベートオフィススペースの合計 23,000㎡
※67のニュース機関がオフィススペースを予約、96機関が17箇所のSPCのプライベート・ワーキング・スペース

大会時スタッフ

運営人員

44,066 人

内訳

所属等	人数
NAOC	995
ORTO	2,919
競技役員	3,570
自衛隊	2,169
地元サポートスタッフ	1,834
ボランティア	32,579
計	44,066

NAOC本部下に60の施設チーム
ORTO:オリンピック放送機構

※競技場別の人員配置については、「施設」参照

NAOC事務局 所属等内訳

所属等	人数
直接雇用	162
政府	12
長野県	348
長野市	72
その他開催箇所	7
県内のその他町村	53
県外自治体	5
民間	289
国際関係コーディネーター(長野県から)	47
計	995

*報告書にNAOC事務局に長野市から出向した72人(すでに表に記載済)の他に、大会期間中、同じく長野市から追加の1,402人の職員が聖火リレー、文化プログラム、皇族対応、長野駅のインフォメーションコーナーを手伝った、という記載あり

ボランティア 内訳

所属等	人数
一般	21,887
企業、自治体	10,692
計	32,579

主な担当業務

ドライバー	31.0%
駐車場・シャトルバスアテンド	16.0%
警備	9.8%
交通整理	8.9%
チケット、ベニュー・メンテナンス	4.9%
	70.6%

ボランティア向けセミナー開催回数 107 回

長野までの交通費は自己負担

大会中の宿泊、シャトルバスはNAOC提供

8日以上働く場合はユニフォーム支給(8日未満の場合は貸し出し)

言語ボランティア

5,500 人

25言語

※詳細→言語

その他の人員

所属等	人数
警察	6,000
文化プログラム支援ボランティア	15,489
施設メンテナンス担当契約スタッフ	964
計	22,453

文化プログラム支援ボランティア ジャンル

ジャンル	人数
パフォーマンス	12,741
生け花	1,495
茶道	860
着付け	393
計	15,489

※188団体

言語対応

《言語ボランティア》 5,552 人
対応言語 25 言語

言語ボランティア 言語別配置

言語	人数
英	4,579
仏	404
独	190
露	136
西	74
中	62
韓	26
伊	22
ポルトガル	15
他	44
計	5,552

※他: チェコ、スウェーデン、フィンランド、モンゴル、ハンガリー、ノルウェー
ルーマニア、アラビア、ポーランド、ブルガリア、スロベニア、オランダ
セルビア・クロアチア、ヘブライ、ラトビア、トルコ

※英語以外の言語については、電話でエバリュエーション(実力診断)が
実施された(対象:1071人)

《プロ通訳》

337 人

所属 通訳・翻訳会社
業務 会議同時通訳、記者会見、ベニュー(施設)マネージャー通訳
公式文書翻訳など

プロ通訳 業務別・言語別配置

業務別	英日	仏日	独日	露日	英他	コーディネーター	計
競技	87	11	29	3	0	0	130
施設・設備運営	44	11	7	0	0	9	71
記者会見	32	0	0	0	23	0	55
同時通訳	11	0	0	0	21	0	32
翻訳	15	14	0	0	0	0	29
IOC通訳	0	0	0	0	20	0	20
計	189	36	36	3	64	9	337

- ・ MPCでの記者会見は6ヶ国語同時通訳(仏、英、独、露、中、日)
状況により、韓国語やスペイン語追加
- ・ SPCでの記者会見は原則英語、必要に応じて選手の母語から英語の逐次通訳
- ・ 英→日が要望に応じて行われた
- ・ スキージャンプ、クロスカントリー、スピードスケート、フィギュアスケート会場では、
ジャーナリストの多さや記者会見の頻度から英日同時通訳が行われた
- ・ NAOCがIOCセッションで行う報告、IOC役員会などでは英日同時通訳が利用可能だったが、
その他の言語の通訳はIOCが提供した。

宿泊

NAOCは、オリンピック・ファミリー、その他大会関係者＝IOC、IFs(各競技の国際連盟)、NOC(国・地域のオリンピック委員会)、招待者、メディアヴィレッジに滞在しないメディアなどの宿泊場所を確保

NAOCが予約した延べ室数 234,207 室

1998/1/24-2/25の宿泊部屋数

宿泊者	部屋数
IOC	14,536
各競技国際連盟	9,478
各国五輪委	12,000
メディア	68,025
スポンサー	35,839
オブザーバー	1,531
その他ゲスト	1,235
小計	142,644
競技役員	13,175
ボランティア	15,269
業者	34,298
文化プログラム・式典参加者	3,186
自衛隊・警察	7,921
ORTO'98スタッフ	14,974
NAOCスタッフ	2,740
小計	91,563
計	234,207

※政府、自治体は、大会関係者について、特別地方消費税および温泉利用税の免除に合意
 ※用意した部屋総数については記載なし

《選手・大会役員》

	人
選手・大会役員 宿泊者数	4,638
内訳	
選手 宿泊者数	2,305
大会役員 宿泊者数	2,333
うち選手村滞在者数	3,300

《メディア》

	人
メディア 宿泊者数	8,329
主な内訳	
メディア・ヴィレッジ滞在	3,435
メディアビレッジ内訳	
柳町	2,192
朝日町	1,243
ホテル滞在	4,000

※14,000円/泊(朝食込)

メディア宿泊ホテル 室数内訳

地域	ホテル	室数
長野市内	56	2,183
白馬	43	445
志賀高原	5	223
軽井沢	1	28
計	105	2,879

※長野市内宿泊の希望が多かったため、民間の寮96室を別途用意

輸送

輸送サービス 33日間 選手村開設～閉会式の3日後

《トランスポーター・カウンター》 箇所

空港、JR駅	14
観客用駐車場	13
競技場、練習場	15
非競技施設	10

他、選手村、軽井沢サテライトビレッジ、MPC、IBC

《バス》

ルート	331
延べ台数	16,000
ピーク時台数	900

運行台数		台	延べ台数
種別	ピーク時	計	
駅ループ	9	210	
選手	129	2,194	
オリンピック・ファミリー	76	423	
メディア	237	4,553	
運営スタッフ	231	4,938	
国際ユースキャンプ	7	69	
観客	482	5,632	
計		18,019	

※同じバスが選手と観客両方に利用された場合は2回にカウントされているため、実際の台数よりも多くなっている

《乗用車》

専用割当台数	236
共用割当台数	268
プール台数	280
NOC台数	316
運営スタッフ台数	420
計	1520

《駐車場》

臨時駐車場	17 箇所	駐車料金は¥2,000-¥10,000 (日数による)
収容数	23,000 台分	

《駐車許可、アクセス許可の発行》 (混雑防止のため、ツアーバスや大会関係者に対して発行)

駐車・アクセス許可	39,536 件
アクセス許可のみ	7,345 件

《選手送迎》

シャトルバス(時間運行)
アイスホッケーチームは別にバス割り当て

《大会役員送迎》

乗用車割り当て	各国NOC用に用意した台数	316
	NOCが追加で各自レンタルした台数	112

《オリンピック・ファミリー送迎》

乗用車割り当て (午前6時～深夜)	T1	乗用車割当・専用
	T2	乗用車割当・共用
	T3	乗用車割当・随時

混雑が予測されるイベントの際はバスが手配されたが、あまり利用されなかった

《メディア送迎》

バス(時間運行)
メディアの宿泊先が107箇所に及んでいたため、バスルート76種類

《運営スタッフ送迎》

公共交通機関、徒歩、シャトルバス

《観客送迎》

パーク・アンド・ライド
指定駐車場に低額で駐車し、シャトルバス利用(480台/日)

医療

メディカル・コマンド・センター スタッフ 50人 (1997/12- 100日間)

《施設》

メディカル・クリニック、応急ステーション	37 箇所
選手村総合クリニック	1 箇所
最大配置人員	480 人
延べ人数	7,700 人
利用件数	5,968 人

メディカル・クリニック、応急ステーション

延べシフト数	4,900 シフト
--------	-----------

- ・競技施設では、競技または練習がある日にオープン
- ・非競技施設は、場所により異なる(例:IOCホテルは24時間体制)

選手村総合クリニック

活動	33 日間	1998/1/24-
医師、看護師延べ数	1,900 人	
取り扱い	1,347 件	

- ・予想より歯科の相談が多かったため、2/1以降、歯科医師2名常駐
- ・期間中、8名が長野赤十字病院に救急車で搬送

《救急搬送》

救急車	63 人	全ての競技施設、及び人が多い施設に配備 危険度が高い競技のペニューに待機
ヘリコプター	5 回	

《ドーピング・コントロール》

サンプル収集

ドーピング・コントロール・ステーション	17 ヶ所
医師、医療看護サポートスタッフ	206 人

※競技会場15箇所、選手村総合クリニック、サテライトヴィレッジ医療クリニックに配置

検査

ドーピング・コントロール・ラボ	621 サンプル
-----------------	----------

《その他》

ジェンダー・ベリフィケーション(性別検査)	679 人
-----------------------	-------

- ・選手村総合クリニックのジェンダー・ベリフィケーション・センターでDNAサンプル採取
- ・長野市立病院内に設けられたジェンダー・ベリフィケーション・ラボで検査
- ・参加女性選手815人のうち、679人がIOCが発行する有効なジェンダー・ベリフィケーションカードを持っていなかったため、検査を受けた。

警備

人員 49,629 人 191日間 1997/9/1-1998/3/10

《人員構成》

所属等	構成	人数
NAOC	主に警察(警備司令室や各施設の警備マネージャー)	1,185
ボランティア	サポートボランティア:警備マネージャー、チームリーダーなどとして地元から	4,524
	一般ボランティア:チケット確認、ゾーンコントロール、言語サポート	22,996
民間警備会社	11社(原則として、施設ごとに1社が担当)	20,924
計		49,629

※ボランティアのうち4,500人は地元消防署から

開閉会式での警備人員配置 人		
	観客数	警備スタッフ
開会式	48,937	470
閉会式	49,257	590

《設備》

監視カメラ

侵入警報システム

X-ray

金属探知機(設置型・携帯型)

アクセスコントロールシステム

バーコードリーダー

施設入り口

虹彩スキャンシステム

選手村のライフル保管庫

追尾方監視カメラ

NAOC本部

指紋認証システム

メイン・アクレディテーション(許可証)センター

ドーピングコントロール・ラボ

マルチメディアターミナル

電話回線で携帯ターミナルから画像を警備司令室に送る

選手村の特徴: 赤外線カメラ

人気の土産物として、日本刀120振りを持ち込まれ、警備が出立まで保管

《保険》

保険購入額	600 百万円
加入カテゴリー	17
購入数	70 件

主なカテゴリー

TV放映権	109 億円
賠償責任保険	54 億円
損害保険	25 億円
偶発事故保険	109 億円

1件当たり限度額

選手村と新設屋内競技場のほとんどで長野市が火災保険購入

機器故障などにより放送が中断された場合の1日最大

参考

報告された事故件数	1,268
海外からのビジターに帰国後も継続して治療費が支払われた件数	7
NAOCの車が期間中に関与した事故件数	148

アクセディテーション(許可証)

《発行数と登録数》

発行数	84,370 人	92%が事前発行うける
登録数	104,780 人	
カテゴリー	32	

《アクセディテーション・センター》

スタッフ・ボランティア	468 人
シフト数	7,289

メイン・アクセディテーションセンター 機材 入室用指紋認証システム 1
データ入力用端末 20 台
カード発行用 11 台

サブ・アクセディテーションセンター 機能はメインと同じ
設置場所
IOCホテル
選手村
サテライトヴィレッジ
IBC
MPC

アクセディテーション・オフィス 各競技場とアイスホッケー練習リンクに設置
確認とデイ・パスの発行のみ
ただし、市内から遠い会場では再発行も可

広報

《出版物》

公式ニュースマガジン ('98 Nagano)	国内	1995/5-	3回/年	30,000 部/回
	英語・仏語	1995/5		10,000 部
	英語	1996,1997	1回/年	
長野オリンピック・ニュース	日本語版	1992/5-1998/1	2回/月	110 回
	英語版	1995/3-	1回/月	
	英・仏	1996/4-	1回/月	
メディア・アップデート	英語	リレハンメル五輪中		
	日本語	1992/6		
	仏語	1997/5	年2回更新	
公式ガイドブック				
公式プログラム				
公式マップ	日本語60万部、英・仏語40万部			
デイリープログラム	日英120万部			
パンフレット	日75万部、英20万部、仏5万部			

《ウェブサイト》

ヒット数 634,716,480 ヒット 期間(16日間)中

《カウントダウンTシャツ・オークション》

500日前から100日ごとに、5人のアーティストがデザインしたTシャツをオークション

売上合計	47,646,254円
最高額	1,550,000円
平均	134,000円

《文化プログラム》

イベント数	264 回
参加者数	270 万人

《オリンピック・ムーブメントの推進》

1998/6/23 ローザンヌのオリンピック・ミュージアムに100万USDドル贈呈

1998/10 同ミュージアムに最新の3Dハイビジョン・シアター・システムを寄贈

《その他》

掲示物

バナー	500枚
カラー・フェンス	1,900m
セーフティネットへの装飾	3,500m
セーフティ・マットへの装飾	1,800m
横断幕	120枚
総合インフォメーション大	49個
インフォメーション/方向指示	5,215個
施設/部屋掲示	5,512個

旗

NOC	1,500
オリンピック	120
日本追加	70
長野大会エンブレム入り	120
国連	35
各競技国際連盟	35

環境

《大会中のごみ》 総量896トン リサイクル率36.3% リサイクル用ゴミ箱設置数 2,831

種別	重量(t)	処理
可燃ごみ	561.0	地元処理施設へ
不燃ごみ	10.0	地元処理施設へ
紙	188.0	長野県リサイクル協会が収集
缶	75.0	長野県リサイクル協会が収集
ガラス瓶	25.0	長野県リサイクル協会が収集
ペットボトル	31.0	長野県リサイクル協会が収集
生ごみ	5.5	肥料としてリサイクル
食器*	0.5	固形燃料や油にリサイクル
計	896.0	

*りんごパルプを利用した紙皿

《競技場建設時の環境配慮》

八方尾根スキー場	アルペン滑降、スーパー大回転、複合 岐阜蝶が卵を産むミヤマアオイ44000本と、希少な870本の常盤碇草が別の場所に植えかえ エリア内の川に生息するイワナは捕獲して上流に放流した。 大会後、ゴール地点付近に高山植物を植えなおした。
東館山スキー場	アルペンスキー大回転 仮設トンネルとスロープの脇の段差は、環境への影響を少なくするため、土ではなくペットボ また、コンクリートを使わず、可能な限り構造物は地面ではなく雪の土台の上に作られた。
焼額山スキー場	アルペンスキー回転、スノーボード大回転 可能な限り、表土を復元したり、雪の土台の上に建物を作った。また、競技場のトイレの廃水 は浄化して、再度トイレに使用したり、人工降雪のために利用された。
スノーハーブ	ノルディックスキークロスカントリー 建設前に取り除いた表土を保管して、作業後に復元。 約42000本の広葉樹の苗木が植樹された。 建設中に伐採された木は木材にして橋など、競技場で利用された。 低騒音の機材を使用。 虫を集めてしまわないナトリウム灯が使われた。 アオガエルの生息地を保全するため、池を作り、木を植えた。 岐阜蝶の産卵のため、カタクリなどの在来植物が植えかえられた。 景観保護のため、電気のケーブルは地下に埋設された。
白馬ジャンプ競技場	ノルディックスキージャンプ、ノルディック複合 建設中に伐採された約5000本の木のかわりに、10000本近い広葉樹とツツジが植えられた。 地域で保護されている岐阜蝶が卵を産むミヤマアオイが、地元の中学生やボランティアの手 その後、卵が確認され、植え替えが成功したことがわかった。
かんばやし スノーボードパーク	スノーボードハーブパイプ 仮設構造物とスロープの脇の段差は、ペットボトルを利用した資材で埋められた。 土への影響が少ないだけでなく、雪不足対策にもなった。 また、可能な限り構造物は地面ではなく雪の土台の上に作られた。
エムウェーブ	スピードスケート 建設中に掘削した土は外部の景観用に利用した。 雨水を地下のタンクにため、革新的な技術で地下水とともに製氷やエアコン、融雪に利用し
ホワイトリング	フィギュアスケート、ショートトラック 仮設足場を減らすため、屋根は最後にクレーンで設置された。 雨水や地下水を地下のタンクにため、製氷やエアコン、融雪に利用した。
ビッグハット	アイスホッケー オゾン層に影響しない製氷方法を利用。 雨水や地下水を地下のタンクにため、製氷やエアコン、融雪に利用した。
アクアウィング	アイスホッケー 電気はガスエンジンで発電。 ガスエンジンや冷凍装置から出る熱をヒーターに利用する熱電併給システム。
スパイラル	ボブスレー コンクリートのコースに埋められたパイプ内に冷媒をとおす間接冷却システム。 安全で、直接冷却よりも使用するアンモニアを大幅に減らせる。 建設で取り除かれた岩や木は、池や地すべり防止の壁に利用。 出来るだけ早くもとの植生に戻すため、取り除いた土は保管されて復元。 約40000本の在来種の広葉樹ブナや樫の苗木が植えられた。 希少種の野草も植えかえられた。 小動物が自由に通れるよう、フェンスのしたには隙間が作られた。
野沢温泉村	バイアスロン ベニュー内を流れる小川の水質を維持するため、沈殿池を作った。 夜間照明はエリア内の動物に影響を与えないものにした。 地元の小学生が植樹に参加した。 建築で伐採された木は周辺の森の鳥の巣箱に利用された。

SLOC:ソルトレークオリンピック組織委員会

《オリンピック》

開催期間	2002/2/8-24 17日間
競技	7 競技
	15 種別
	78 種目
	165 セッション
参加選手	2,531 人
参加国・地域 NOC数	77

NOC:国・地域のオリンピック委員会

《パラリンピック》

開催期間	2002/3/7-16 10日間
競技	5 競技
参加選手	416 人
参加国・地域 NOC数	36

NOC:国・地域のオリンピック委員会

聖火リレー

日数	65 日
国内距離	21,725 km
聖火ランナー	12,012 人

収支 (換算レート:US\$ =125.4円)

大会総予算 238,237 百万円

収入 326,008 百万円

収入内訳	金額
運営用SLOC予算	163,004 百万円
現金収入	125,388 百万円
VIK	37,616 百万円
計	326,008 百万円

※VIK(Value In Kind: 物品またはサービスによる収入)

支出 記載なし

黒字額 7,022 百万円
 用意した予備費が全く使われなかったため

黒字分用途 3,762 百万円 ユタ・アスレチック基金へ
 この基金は、ユタ・オリンピック・オーバルとユタ・オリンピック・パークの維持にも活用

752 百万円 ソルトレーク市内の別のレガシー・パーク財源に

1,317 百万円 連邦政府に返還

マーケティング (換算レート:US\$=125.4円)

《マーケティング収入》 百万円

収入	社数	金額
放映権料	—	55,547
TOPパートナー	11社	83,132
国内スポンサー	53社	61,942

※IOC資料による

《国内スポンサー》 ※米国内でのみ活動できる

種別	社数	基準
ベンチマーク・パートナー	6社	6,269百万円(キャッシュ/物品)以上の協賛金
スポンサー	16社	2,508~6,270百万円
サプライヤー	32社	469~2,508百万円未満
計	54社	

《その他活動》

OPUSとSLOCとが下記プログラムで協働

*OPUS Olympic Properties of the United States LLC(有限責任会社 米国オリンピックプロパティ)

《OPUSローカル・スポンサー・プログラム》

協賛金合計	109,840 百万円	SLOC、USOCへ
チケット販売	1.525 百万枚	発売数の95%

《ソルトレーク2002ドナー・プログラム》

SLOCが7つのカテゴリーで、2002年オリンピック/パラリンピックの成功のために寄付をつのる

ドナーには、チケットの購入権、ホスピタリティ・プログラムへの参加、プレ大会のアクティビティへの

参加などの特典を付

寄付金合計	5,642 百万円
-------	-----------

種別	参加数	基準
プラチナ・ドナー	3	\$8百万(1,003百万円)以上(cash/VIK)
ゴールド・ドナー	20	\$1百万(125百万円)以上
シルバー・ドナー	13	\$50万(63百万円)以上
ブロンズ・ドナー	69	\$10万(13百万円)以上

*(cash/VIK):キャッシュまたは物品協賛

カテゴリー

- ・スポーツ(競技支援)
- ・レガシー(今後の冬期スポーツのため)
- ・青少年スポーツ&教育
- ・芸術・文化
- ・環境
- ・パラリンピック
- ・オリンピック全般

チケット

売上枚数	2,000,000 枚(概数)
チケット収入	22,946 百万円

《会場別チケット販売状況》

(人)

会場名	収容数	種目	チケット 売却率	観客数計	各回 平均
スノー・ベイسن・スキー・エリア	22,500	ダウンヒル、スーパーG、複合	99.1%	124,373	21,000
パークシティ・マウンテン・リゾート	16,000	ジャイアント・スラロームスノーボード パラレル、ジャイアントスラローム、ハーフパイプ	99.8%	95,991	15,700
ディア・バレー・リゾート	13,400	スラローム、フリースタイル・エアリアル、モーグル	99.4%	96,980	13,800
ユタ・オリンピック・パーク	15,000	スキー・ジャンプ	95.0%	90,579	18,100
		ノルディック複合	95.0%	51,286	17,100
		ボブスレー	100.0%	74,187	14,837
		スケルトン	100.0%	14,860	—
		リュージュ	100.0%	64,104	12,820
		計	96.5%	295,016	—
ソルジャー・ホロー	15,200	バイアスロン	81.0%	64,160	12,830
		クロスカントリー・スキー	81.0%	99,320	11,035
		ノルディック複合	67.0%	26,913	8,971
		計	79.0%	182,421	—
ソルトレーク・アイスセンター	17,500	フィギュア・スケート	100.0%	145,997	14,600
		ショート・トラック	100.0%	59,878	14,970
		計	100.0%	205,875	—
アイスシート・アット・オグデン	2,000	カーリング	97.6%	40,572	1,300
ユタ・オリンピック・オーバル	5,236	スピードスケート	100.0%	53,056	4,375
Eセンター	10,500	アイスホッケー	96.7%	230,657	7,960
ザ・ピークス・アイスアリーナ	8,400	アイスホッケー	93.0%	131,067	5,461

*「—」は記載なし

《チケットのタイプ》

スーベニア・チケット	170万枚製造 事前予約。偽造防止のため、すかし、3Dホログラム、トレースインク使用。
サーマル・チケット	46.3万枚製造 オンラインまたは販売所での購入。スーベニアチケットと似ている。ホログラム有
セレモニー・チケット	12万枚製造 開会式、閉会式用の特別デザイン。メタリックシルバーのインク使用

部門(ファンクション)別予算

資料の数字に齟齬があるときは、原則として詳しい記述があるほうを優先

《部門別予算》

百万円

部 門	計	現金	VIK	その他	備 考
競技	6,457	3,661	1,003		※合計値の不一致は資料どおり
医療	1,630	994	652		現金寄付991百万円含む
ドーピング・コントロール	690	276	414		VIKは政府ファンド
会場運営、保安統括	1,115	1,107	8	43,886 (連邦政府)	
ア krediteーション(許可証)	198	81	117		
会場サービス	1,770	1,438	332		
選手村	4,747	4,494	252		
ごみ処理、リサイクル、清掃、除雪	396	335	62		
会場管理	202	171	31		878万円/ベニューの予備費
会場コミュニケーション	Event Managementで管理				
運営企画管理	539	514	25		
メイン・オペレーション・センター	42	17	25		
輸送	4,012	2,182	1,831		
ベニュー開発	35,610	25,078	10,533		
環境	125	95	31		
式典	6,821	6,646	176		
クリエイティブ・サービス	3,260	752	2,508		
大会イメージ	2,372	2,359	13		
聖火リレー	3,135	2,696	439		
芸術・文化	303	285	18		
メディア対応	228	202	27		
プレス	1,204	991	213		
放送管理	10,388	10,357	0		ホスト放送局とのリエゾン
宿泊	234	224	11		
チケット	1,107	693	414		
飲食	3,762	1,229	2,633		
ビジターサービス	—	—	—		
情報技術サービス	20,373	8,242	12,129		
インターネット	1,686	150	1,505		
通信	9,092	1,826	7,265		
計時、スコア、試合結果	4,389	1,442	2,947		
会計	150	138	10		
財務計画	163,004	125,388	37,616		
資材調達、補給	1,990	1,095	894		
危機管理	1,555	1,542	11		
VIK管理	財務予算に含まれる				VIK:502億円相当以上
マーケティング	601	514	86	3,009 (OPUS)	
教育	69	65	4		
人事	28,338	27,786	464		
海外クライアント対応	584	527	58		IOC、オリンピック・ファミリー等
NOC/NPC、選手関連	288	276	11		
オフィス・マネージメント	3,448	2,608	840		事務所リース:1066百万円
法務	2,508	2,470	34		
ブランド保護	63	45	22		
連邦政府関連	354	311	43		
州、地元政府関連	—	—	—		
計	328,839	241,302	85,707	46,895	

*OPUS: Olympic Properties of the United States LLC(有限責任会社 米国オリンピックプロパティ)

*VIK: 物品・サービスによる協賛

*「—」は記載なし

部門補足

《クリエイティブ・サービス》

提供者	相当額(百万円)	内 容
Hallmark	414	高品質プリント
NBC	1,254	放送枠(シドニー五輪中)
KSL TV	75	ローカル・テレビ放送枠
Sports Illustrated	313	放送枠
USA Today	752	全国版広告枠
Salt Lake Tribune / Deseret News	63	広告枠

* VIK(物品・サービス協賛)の内容は機器使用、印刷サービス、広告枠など

* サプライヤーKSL TV関連会社KSL/Video Westの社員がフルタイムでSLOCの映像マネージャーを担った

* 現金協賛のうち、113百万円は音楽使用权や、モデルなどの内容

《インターネット》

2000/10-2001/2でsaltlake2002.comは75万円/週の売り上げ
SLOCは収益の20%と、5%のロイヤルティーを受け取る

ウェブサイトの構築費は125百万円以下。
人員やコストの大部分はスポンサーやベンダー(業者)が負担

SLOCはサイトを通じて、9/11追悼のピンを販売し、犠牲者への義援金として251百万円以上を売り上げ

期間中、SLOC、MSNBC、NBC、MicrosoftがOlympics.comを立ち上げ、10億ページ以上のヒット
直接広告、プロモーション効果は1,881百万円相当
またマイクロソフトとのプロモーション合意により、MSNサイトを通じた広告効果は2,508百万円相当

《テレコミュニケーション》

期間中、レート・カード・プログラムでオリンピック・ファミリーがテレコム・サービスを購入できるため、

大会運営に4000台の携帯電話を配布したが、レート・カード・プログラムで4000台追加要求。
期間中のワイアレス予算は設備費を含め251百万円以上。

レート・カード・プログラムでオリンピック・ファミリーがNBC、MSNBC、CNBCのスポーツ、

放送関係者、スポンサー、メディア、各国委員会などに、期間中の活動に必要なものをリースする
プログラム。オフィススペース、家具、通信機器、AV機器、車など。

《ブランド保護》

98%のブランド保護関連事件は解決
ほとんどは大会前に調査

大会前に調査された事件

権利侵害広告・宣伝	36%
ドメイン名の占拠	27%
商品の偽造	18%

米国税関は70件の押収を報告
10万点以上の偽物(衣料品:3,710、ピン:104,006)、総額100百万~125百万円

施設

会場施設開発部門の予算	35,610百万円	
内 訳	cash	25,078百万円
	VIK	10,533百万円

※上記金額は「開発費」ではなく、部門としての予算

※開発費のデータはないが、レポート文中に「ベニュー（施設）開発に21,316百万円以上」との記載がある

《施設別収容状況》

会場名	収容数	種 目	ボランティア	観客数計	セッション平均	人
スノー・ベイسن・スキー・エリア	22,500	ダウンヒル、スーパーG、複合	1,485	124,373	21,000	
パークシティ・マウンテン・リゾート	16,000	ジャイアント・スラローム、スノーボード パラレル、ジャイアントスラローム、ハーフパイプ	305	95,991	15,700	
ディア・バレー・リゾート	13,400	スラローム、フリースタイル・エアリアル、モーグル	265	96,980	13,800	
ユタ・オリンピック・パーク	15,000	スキー・ジャンプ	197	90,579	18,100	
		ノルディック複合	197	51,286	17,100	
		ボブスレー	125	74,187	14,837	
		スケルトン	125	14,860		
		リュージュ	133	64,104	12,820	
		計		295,016		
ソルジャー・ホロー	15,200	バイアスロン	270	64,160	12,830	
		クロスカントリー・スキー	332	99,320	11,035	
		ノルディック複合	332	26,913	8,971	
		計		182,421		
ソルトレーク・アイスセンター	17,500	フィギュア・スケート	93	145,997	14,600	
		ショート・トラック	47	59,878	14,970	
		計		205,875		
アイスシート・アット・オグデン	2,000	カーリング	111	40,572	1,300	
ユタ・オリンピック・オーバル	5,236	スピードスケート	57	53,056	4,375	
Eセンター	10,500	アイスホッケー	181	230,657	7,960	
ザ・ピークス・アイスアリーナ	8,400			131,067	5,461	
ライス・エクルズ・オリンピック・スタジアム	50,000	開会式・閉会式	—	—	—	
オリンピック・メダル・プラザ	20,000		—	(座席:9,000、立ち見:11,000)		

*「—」は記載なし

部門(ファンクション)別人員

資料の数字に齟齬があるときは、原則として詳しい記述がある方を優先

《期間中人員》

部門	有給スタッフ	パート/臨時	ボランティア	備考
競技	65		200	
医療	48		1,800	
ドーピング・コントロール	4		300	
運営、保安統括	別表(警備)			
アクレディテーション(許可証)	34		490	
運営サービス	100	1,500	4,000	
選手村	119		372	他部署所属を含めると計3,300、業者1,600
ごみ処理、リサイクル、清掃、除雪	36	450	900	
管理	44		10	
連絡	4	30	219	
運営企画管理	20		4	他、MPCに100、選手輸送に1300
メイン・オペレーション・センター	110			
輸送	1,478		3,066	
施設開発	91			
環境	5		10	ボランティアは環境コンプライアンスオフィサー 他、フルタイム出向1、ハーフタイム1、ハーフタイム出向1、業者13
式典	230		1,980	他、業者830、キャスト7100
クリエイティブ・サービス	107			
視覚	21			他、業者300
聖火リレー	160		22	
芸術・文化	5		40	他、地元ボランティア130
メディア対応	11		10	他、業者5
プレス	794		800	
放送管理	1			
宿泊	16		12	
チケット	10		11	他、業者128
飲食	26		500	他、業者2900
ビジターサービス	1			Visitor Information Servicesにアウトソース
情報技術サービス	99		646	他、ITパートナースタッフ615
インターネット	7			他、業者40
通信	120		485	他、業者1315
計時、スコア、試合結果	420		140	
会計	15	2	1	
財務計画	38		20	
資材調達、補給		250		他に施設ごとの調達マネージャー配置
危機管理	40		28	
VIK(物品・サービス協賛)管理	3			
マーケティング	31		68	他、OPUSから17
教育	6		14	
人事	50	60	435	
国際クライアント対応	38		924	他、業者40、参加者28
NOC、NPC関連	19		1,015	オリンピック742、パラリンピック273
オフィス・マネージメント	28		6	
法務	7		2	スタッフ内訳: 弁護士5、サポート2
ブランド保護	6		35	
連邦政府関連	10			
州、地元政府関連	1			
計	4,478	2,292	18,565	

宿泊

SLOCが予約した延べ室数	19,083 室
---------------	----------

- * 平均滞在日数24泊
- * 宿泊担当部門が宿泊場所の確保や割り当て、支払いを担当し、10,407百万円相当の宿泊を確保
- * このサービスから得た手数料利益が1,379百万円となった
- * これがSLOCスタッフの宿泊経費支払いに充てられたが、これを差し引いても125百万円の黒字

《民間施設》

臨時宿泊施設として、民間が政府の補助を受けて建設
大会終了後は、半分が低所得層用のアパートとして転用

助成金	251 百万円	(1~2ベッドルーム)
規模	330 戸	
	432 室	

輸送

《交通計画負担》

運輸省	12,539 百万円
SLOC	2,508 百万円

※合衆国運輸省がSLOCへの協力に合意

《輸送手段》

選手・関係者 5,000 人登録

15人乗りバン	450 台
カーゴ・バン	30 台
バス	50 台

メディア 11,500 人登録

バス	350 台
15人乗りバン	90 台

オリンピック・ファミリー

専用車・ドライバー	430 台	バン・セダン・SUV
共用車・ドライバー	—	
ハイヤー、タクシー オンデマンド	230 台	バン・セダン・SUV
チャーターバス	25 台	開会式・閉会式など

スポンサー

バス+ドライバー1人	18万円/日
バス+ドライバー2人(24時間利用可)	30万円/日

SLOCが直接行わず、別手配のシステムを構築
主に利用されたのはSLOCが地元バス会社と契約したバス

観客

3つのシステム

	システム名	運営
1	Salt Lake Valley Olympic Spectator Transportation ソルトレーク五輪観客輸送	Utah Transit Authority
2	Mountain Venue Transportation System 山岳ベニュー輸送システム	SLOC
3	Mountain Venue Express 山岳ベニュー・エクスプレス	SLOC

*チケット所有者、登録選手・関係者は無料

3システムの体制(合計)

ライト・レイル・ヴィークル(内、29台は借り上げ)	62	台
運転手、整備士	96	人
UTAバス	328	台
借り上げまたはリースバス	1,120	台
バス運転手、整備士	1,168	人

※The Mountain Venue Express で、市内、プロウォやオグデンから特定の山岳ベニューへは
往復\$5(約630円)、という記載があるが、無料対象なのかどうかは記述からは不明

医療

スタッフ	48 人
ボランティア	1,800 人

医療ステーション	37 ヶ所
----------	-------

全ての移動医療スタッフに無線機を貸与
アルペン会場のスノー・ベースンでは、医療スタッフに40台以上の無線機を配布
観客対応医療スタッフに10台

医療関連予算	百万円
項目	金額
cash	3
VIK	652
現金寄付	991
計	1,646

ドーピング・コントロール

スタッフ	4 人
ボランティア	300 人

競技中検査	700 件
競技外検査	100 件

検査コスト

検査内容	費用
通常の競技中尿検査	37,600 円/検体
抜き打ち検査	>1,000 円/検体

ドーピング・コントロール予算

項目	金額
cash	276 百万円
VIK	414 百万円
計	690 百万円

警備

セキュリティー人員

米軍	3,500 人
連邦職員、シークレットサービス	2,100 人
FBI	1,400 人
警察等ボランティア	600 人
州および地元警察	2,100 人
消防、救急	1,100 人

セキュリティ・ファンクション予算

項目	金額
cash	1,107 百万円
VIK	8 百万円
計	1,115 百万円

連邦政府負担分	43,886 百万円
---------	------------

保険

危機管理ファンクション人員

スタッフ	40 人
ボランティア	28 人

保険関連予算

項目	金額
cash	1,542 百万円
VIK	11 百万円
合計	1,555 百万円

キャンセルーション保険 18,808 百万円

スポンサーやサービスプロバイダー用にイベントが中止になった場合の保険

*VIK: 物品・サービス協賛

環境

《リサイクル》

ダンボール	117 トン
プラスチック	79 トン
アルミニウム	4 トン

期間中のゴミを再利用または堆肥化	95.60%
------------------	--------

《植樹》

環境保全のコミットメントとして世界中で植樹	18,000 千本
うちユタ州内での植樹	100 千本

《その他》

大気汚染除去	50 万トン
--------	--------

メディア

ア krediteーション(証明書)発行数	9,000 (概数)
-----------------------	------------

印刷メディア関係者登録数		2,661 人
内訳	編集者、ライター	1,617 人
	カメラマン	532 人
	MPCのみ	178 人
	技術者	185 人
	ノン・ライト・ホルダー	149 人

*ノンライト・ホルダー:放映権を持たないメディア、非権利者

その他

芸術・文化

SLOC主導で、州内の文化機関への参加を奨励
最大3000ドル(約38万円)の助成金として40口分の資金を集めた

2002オリンピックアートフェスティバル開催

- ・ 40%のパフォーマンスや展示は無料
- ・ 40万人以上が参加
- ・ 60パフォーマンス
- ・ 15展示

教育

幼稚園から12年生までの60万人以上にオリンピック関連の体験プログラムを提供
865の公立、私立、教区立学校の25000人の教員が冬期オリンピックをカリキュラムに組み込む

予算削減への対応のため、教育助成金として合計34.5百万円を獲得

「ワン・スクール、ワン・カントリー」プログラム

2002 Education Website

「シェアリング・ザ・オリンピック・スピリット」

Education Functionがスポンサーとなった企画

オリンピック/パラリンピックスクール

シェアリング・ザ・オリンピック・スピリット

60000枚のチケットを生徒たちに配布

オリンピック記念ナンバープレートを\$22(約2,760円)で販売した、3.5億円が財源

72,000人の生徒がパラリンピック見学

連邦政府

議会在がソルトレーク五輪費として502億円以上の歳出を承認

連邦政府、州、地元政府がセキュリティー、公衆安全にかけた費用は約251億円
(ファンクション別予算では、連邦負担439億円となっている)

合衆国運輸省がSLOCへの協力を合意

五輪全体の交通計画について、運輸省125億円、SLOC251億円負担

合衆国環境保護庁がSLOCの環境プログラムに協力するにあたり、議会は特別助成金約3億円を承認

アメリカ国立気象局と、SLOCのスポンサーであるKSLテレビ・ラジオが気象インフラを整備
気象局はユタ州の既存の気象データ収集インフラを約2.5億円かけて改善

TOROC:トリノオリンピック組織委員会

《オリンピック》

開催期間	2006/2/10-26 17日間
競技	7 競技
	15 種別
	84 種目
参加選手	2,633 人
参加大会役員	2,704 人
参加国・地域 NOC数	80

※国・地域のオリンピック委員会

《パラリンピック》

開催期間	2006/3/10-19 10日間
競技	4 競技
	28 種目
参加選手	477 人
参加大会役員	611 人
※選手数は資料により486もあり	
参加国・地域 NOC数	39
※国・地域のオリンピック委員会	
聖火リレー	聖火ランナー 263

聖火リレー

日数	64 日
国内距離	10,001 km
聖火ランナー	11,300 人

聖火リレー

聖火ランナー	263 人
--------	-------

《アクレディテーション(証明書)発行数》

人

分類	発行者数
選手	2,574
チーム関係者	2,704
ラジオ・テレビ関係者	6,772
ホストブロードキャスター	2,400
報道記者・カメラマン	2,691
IOC、オリンピック・ファミリー、各国五輪委など	5,300
トリノ五輪委	48,915
警備関係者	14,184
計	85,540

《メディア関係者数》

人

メディア別	関係者数	内訳
放送メディア	6,772	ラジオ、テレビ関係者
プレス	2,691	報道・通信社、カメラマン
ホスト局	2,400	ホストブロードキャスター

収支 (換算レート: Euro=146.0円、US\$=116.3円)

《運営費》

収入見込 179,448 百万円

百万円		
収入内訳	割合	金額
スポンサー	34%	61,012
ライセンス	1%	1,794
チケット	6%	10,767
レート・カード	3%	5,383
その他	19%	34,095
放映権	37%	66,396
計	100%	179,447

※レポートでは割合のみ示されているため、金額は割合から算出

<レート・カード・プログラム(rate card programme)>

放送関係者、スポンサー、メディア、各国委員会などに、期間中の活動に必要なものをリース。オフィススペース、家具、通信機器、AV機器、車など。約600人(団体)が、1876件のオーダーを出した。

参考:ファイナル・レポート記載のチケット売上

枚数	930,000 枚
収益	10,133 百万円
うち開会式	2,032 百万円

支出見込 179,448 百万円

百万円		
支出内訳	割合	金額
技術	18%	32,301
通信・イメージ	6%	10,767
マーケティング・スポンサー	6%	10,767
他(人件費等)	17%	30,506
インフラ	13%	23,328
放送	6%	10,767
ベニュー管理	4%	7,178
輸送・調達	4%	7,178
その他運営費	26%	46,657
計	100%	179,449

※レポートでは割合のみ示されているため、金額は割合から算出

購買額 83,142 百万円

施設開発費 267,933 百万円

公的資金 172,665 百万円

(法律で特に割り当てられたもの)

※残りは追加の公的または民間資金

部門別運営予算 (換算レート: Euro=146.0円、US\$=116.3円) 2006年10月更新データ

支出内訳 (2000-2006年)		百万円 金額
人事・組織		3,052
内訳	人事	1,416
	ボランティア	1,635
ベニュー管理		7,885
インフラ・公共料金		22,690
競技		1,665
宿泊		6,483
ア krediteーション(証明書)		321
法制当局・CEO		2,876
総合サービス		2,949
輸送		4,453
海外関連担当		1,548
食品・清掃		4,789
内訳	飲食	3,387
	ごみ処理・清掃	1,402
医療		1,051
報道		730
各国五輪委担当		394
資材補給		1,898
運営サポート		15
管理、財務、法務		10,440
調達		920
安全		2,891
技術		32,882
環境		584
コミュニケーション		10,936
内訳	イメージ	1,927
	編集サービス	905
	芸術・文化	292
	聖火リレー	1,124
	イベント・式典	6,687
メディア関連		307
開催地関連		102
観客担当		204
コミュニケーション・外部対応		292
マーケティング・スポンサーシップ		10,411
内訳	ブランド保護	58
	マーケティング・スポンサーシップ	7,520
	顧客サービス	423
	チケット	1,679
	ライセンス	730
放送		11,564
競技計画・IOCリエゾン(連絡窓口)		102
運営		4,468
内訳	MOC*	102
	運営	4,366
その他		511
スタッフ経費		30,035
計		179,448

*Main Operation Centre (メイン・オペレーション・センター; 運営本部)

マーケティング (換算レート: Euro=146.0円、US \$=116.3円)

《収入見込》

マーケティング収入別	全収入に占める割合	金額
放映権	37%	66,396 百万円
スポンサー	34%	61,012 百万円
ライセンス	1%	1,794 百万円
計	72%	129,202 百万円

《スポンサー数》

カテゴリー	期間ごとの獲得数		
	～2003/12/31	～2004/12/31	～大会終了
トップ	11	11	11
メイン	4	4	5
オフィシャル	7	10	16
オフィシャルサプライヤー	11	20	30
計	33	45	62

IOCとの連携で誘致・管理
トリノ五輪委が選択・管理
トリノ五輪委が選択・管理
トリノ五輪委が選択・管理

カテゴリー別協賛状況

カテゴリー	協賛の種別		総額に占める割合
	Cash(現金)	VIK(物品・サービス)	
トップ	18%	82%	32%
メイン	53%	47%	33%
オフィシャル	54%	46%	19%
オフィシャルサプライヤー	15%	85%	16%

※上記部分の資料には「総額は64,625百万円」と記載あり

《ライセンス》

ライセンス契約数	32 件
----------	------

公式グッズの販売状況(2006/2/1-28データ)

販売数	540,000 点
売上高	1,728 百万円

トリノ・スーパーストアの来店・販売状況

来店者	300,000 人
売上高	1,898 百万円

売れ筋公式グッズと販売数

ピン	100,000 点
シャツ	60,000 点
マスコット	55,000 点

(8日目で売り切れ)

チケット

売上枚数	1,061,347 枚
チケット収入	10,351 百万円

※金額はIOCLレポートによる

《競技別チケット販売状況》

オリンピック 899,231 枚

競技別内訳	枚数
アイスホッケー	328,012
フィギュアスケート	58,544
スピードスケート	71,648
カーリング	42,267
ショートトラック	29,140
スキージャンプ	24,200
アルペン	74,529
クロスカントリー	60,493
バイアスロン	42,854
ボブスレー	28,465
ノルディック複合	11,430
フリースタイルスキー	41,102
スケルトン	4,854
リュージュ	11,646
スノーボード	28,647
開会式・閉会式	41,400
計	899,231

パラリンピック 162,116 枚

競技別内訳	枚数
アイススレッジホッケー	66,477
車椅子カーリング	14,097
アルペン	38,937
クロスカントリー	11,693
バイアスロン	5,284
開会式	25,628
計	162,116

施設開発 (換算レート: Euro=146.0円、US\$=116.3円)

施設開発費 267,933百万円

 うち公的資金 172,665百万円
 (法律で特に割り当てられたもの)
 残りは追加の公的または民間資金

《施設別開発費》

マウンテン(山岳地域)		百万円	
施設名・開発項目	種目	分類	開発費
セストリエーレ			
シセス・トラック	ジャイアント・スラローム	改	572
カンダハル・トラック	スペシャル・スラローム	改	1,015
G.ナシ・トラック	ダウンヒル、スーパーG、コンバインド・ダウンヒル	新	7,804
選手村	—	新	3,739
リフティング・ステーション	—	新	3,739
セサナ・サン・シカリオ			
フライデーベ・トラック	ダウンヒル、スーパーG、コンバインド・ダウンヒル	改	1,983
サン・シカリオ・トラック	バイアスロン	新	3,855
競技設備	ボブスレー、リュージュ、スケルトン	新	12,525
リフティング・ステーション	—	新	1,942
ブラジェラート			
スキースタジアム	クロスカントリー	新	3,009
ジャンプ設備	ジャンプ	新	5,099
バルドネッキア			
ハーフパイプ・スノーボード・トラック	—	改	213
メレゼト・トラック	ジャイアントスラローム・スノーボード	改	1,879
選手村	—	新	4,088
ソーズ・ドル			
クロテス・トラック	フリースタイル	改	1,879
山岳地帯全体(ブラジェラート除く)			
計画降雪	—	—	6,506

シティー(トリノ周辺地域)

施設名・開発項目	種目	分類	開発費
トリノ			
パラスポーツ・イソザキ(オリンピック)	アイスホッケー	新	15,112
パラスポーツ・オーバル・リンゴット	スピードスケート	新	10,844
パラベラ	フィギュアスケート、ショートトラック	新	8,285
タツオーリ	—	新	2,038
選手村	—	新	23,623
メディア村	—	新	27,862
ピネロロ			
パラスポーツ・カーリング	—	改	2,428

*「分類」は、新:新規建設、改:既存施設を改築、既:既存施設

*「—」は記載なし

施設

《競技会場と座席数》

会場名	競技	座席数	席
バルドネッキア	スノーボード	6,763	
チェザーナ・パリオル	ボブスレー・スケルトン・リュージュ	4,400	
チェザーナ・サン・シカリオ	バイアスロン	4,700	
オーバル・リンゴット	スピードスケート	8,250	
ピネロロ・パラギアチョ	カーリング	2,000	
プラジェラート	ジャンプ、ノルディック複合	8,055	
プラジェラート・プラン	クロスカントリー、ノルディック複合	5,400	
パラスポーツ・オリンピコ	アイス・ホッケー	12,500	
パラベラ	フィギュアスケート、ショート・トラック	8,000	
サン・シカリオ・フライテーベ	アルペン	6,160	
サウゼ・ドルクス	フリースタイル	7,900	
セストリエール・コール	アルペン	7,300	
セストリエール・ボルガータ	アルペン	6,800	
トリノ・エスポジツィオニ	アイス・ホッケー	5,400	
トリノ・パラジャッチオ	トレーニング(フィギュア、ショートトラック)	3,350	
ヴィア・マッサーリ	トレーニング(アイスホッケー)	40	
メダル・プラザ	表彰式(フリーチケット)	1,000	立見:8,000
オリンピック・スタジアム	開会式・閉会式	35,000	

《選手村》

選手村	収容数	人
トリノ		2,500
バルドネッキア		725
セストリエーレ		1,850

部門(ファンクション)	スタッフ	ボランティア	他	備考
人事・組織	33	—		
ボランティア	25	350		
会場施設 管理	128	3,188		
内訳				
通信	40	250		
標識	2	—		業者チーム
観客担当	33	2,938		
施設統括	53	—		
競技会場、トレーニング会場	937	8,359		
内訳				
バルドネッキア	51	538		
チェザーナ・パリオル	65	600		
チェザーナ・サン・シカリオ	150	500		
オーバル・リンゴット	70	517		
ピネロロ・バラギアチョ	55	600		
ブラジェラート	48	480		
ブラジェラート・プラン	55	480		
パラスポーツ・オリンピコ	62	737		
パラベラ	73	729		
サン・シカリオ・フライテーベ	40	480		
サウゼ・ドルクス	51	430		
セストリエール・コール				
セストリエール・ボルガータ	114	1,316		
トリノ・エスポジツィオニ	60	690		
トリノ・パラジャッチオ	25	200		
ヴィア・マツサーリ	18	62		
非競技施設	781	3,723		
内訳				
トリノ国際空港	12	180		
オリンピック・ファミリー用ホテル	80	1,200		
国際放送センター	473	—		
メイン・プレスセンター	120	800		
メダル・プラザ	45	270		
オリンピック・スタジアム	51	1,273		
選手村	364	1,830		
内訳				
トリノ	129	130		
バルドネッキア	75	300		
セストリエーレ	160	1,400		
競技会場(臨時雇用)維持管理	56	—		
競技会場(常勤雇用)維持管理	10	—		
エネルギー(電力)供給	59	—		
競技	642	2,942		
競技計画・運営	10	13		
競技サービス	31	10		
宿泊	6	—		
メディア村	3	—		
アクレディテーション(許可証)	44	535		
輸送	205	3,734		
国際関連(オリンピック・ファミリー対応)	93	1,255		
飲食	62	—		
ごみ処理・清掃	48	—		
医療	11	—		
ドーピング・コントロール	6	—		
プレス対応	215	750		
各国五輪委担当	32	—		
資材補給	8	—	2	サプライヤー
運営サポート	4	—		
管理、財務、VIK(物品協賛)、レート・カード	22	—		
法務	3	—		
危機管理	5	—		
調達	5	—		
安全	224	1,536		
IT	227	4		
電気通信	80	300		
計時、スコア、競技結果	35	460		
インターネット	10	4		
ベニュー計画・技術運営	6	—		
環境	9	52	2	コンサルタント

部門(ファンクション)		スタッフ	ボランティア	他	備考
コミュニケーション		259	5,140		
内訳	イメージ	22	—		
	編集サービス	13	3		
	芸術・文化	5	13		
	聖火リレー	159	18		
	イベント・式典	17	5,000		
	メディア関連	23	30		
	地元対応	5	—		
	シティ・プロジェクト推進	7	—		
	オリンピック教育	8	76		
オリンピック・マーケティング		123	230		
内訳	マーケティング・スポンサーシップ	85	90		
	ブランド保護	6	50		
	スポンサー対応	9	50		
	チケット	12	40		
	ライセンス	11	—		
放送(TOBO:トリノ五輪放送機関)		—	—	2,240	放送関係者
競技計画・IOCリエゾン(連絡窓口)		4	2		
知識管理(過去・今後の五輪委と知識共有)		2	2		
運営事務局、メインオペレーションセンター運営		38	2		
合 計		4,909	34,421	2,244	

宿泊

期間中、TOROC(トリノ五輪組織委)のメイン・オペレーション・センターに予約センターを設置

《宿泊施設確保数》

対応人数	37,000	人分
確保室数	16,000	室

※山岳部にプライベート・アパートメントを3,000確保

《選手村》

地域	収容人数	滞在者数
トリノ	2,500	2,100
バルドネッキア	725	720
セストリエーレ	1,850	1,850
計	5,075	4,670

※53カ国を受け入れ

《報道関係者宿泊施設》

大会別	オリンピック			パラリンピック		
	メディア村	ホテル	住宅型	メディア村	ホテル	住宅型
シティー	7	34	—	1	—	—
マウンテン	—	45	600	—	数軒	—

*「—」は記載なし

輸送

《バス・乗用車利用状況》

バス	1,200 台
平均運行/日	5,550 回
乗用車	2,700 台

利用者数	930,000 人(延べ数)
------	----------------

《関係者別輸送手段》

選手・監督・関係者

大会別	オリンピック	パラリンピック
ミニバン	172 台	95 台
バス	94 台	16 台
乗用車	36 台	—

オリンピック/パラリンピック委員会

大会別	オリンピック	パラリンピック
ミニバン	—	9 台
車	399 台	114 台

報道

大会別	オリンピック	パラリンピック
バス	288 台	32 台

医療

《医療関係スタッフ》

職種等	人数
組織委スタッフ	11人
医師	500人
看護師	850
ボランティア	1,600
山岳レスキュー	200

《緊急輸送手段》

救急車	42台
ヘリコプター	3機

出動回数	19回
------	-----

内訳

昼間	17回
夜間	2回

《ドーピング・コントロール》

スタッフ人数 415人

※うち315人が選手エスコートとサンプル採取を行った

関連施設

アンチ・ドーピング・センター	1カ所
----------------	-----

ステーション	18カ所
--------	------

ステーション内訳

競技会場	14カ所
選手村	3カ所
メダルプラザ	1カ所

検査件数

尿検査 総計	1,169件
血液検査 総計	333件

オリンピック

件

検査	競技無関連	競技後	計
尿	261	658	919
血液	167	133	300
計	428	791	1,219

パラリンピック

件

検査	競技無関連	競技後	計
尿	114	136	250
血液	0	33	33
計	114	169	283

警備

担当スタッフ

有給スタッフ	204 人
ボランティア	1,536 人
計	1,740 人

探知機

X線探知機	202 台
金属探知機	463 台
携帯型金属探知機	922 台

保険

大会中に発生した保険が支払われたケース

種類	件数	金額
対第三者責任	85	43.8 百万円
ボランティア怪我	80	21.9 百万円
選手の送還に関わるもの	10	5.5 百万円
物損	3	5.8 百万円

五輪ブランド保護

五輪ブランド保護のために取られた措置

件

対応	書簡・直接交渉	法執行機関	法的措置	対応せず	計
TVコマーシャル	3	-	-	-	3
印刷物への広告	30	5	-	-	35
ラジオコマーシャル	6	-	-	-	6
チラシ配布	12	14	-	-	26
広告ポスター	-	15	-	-	15
偽物商品	2	9	1	-	12
インターネット	55	10	-	8	73
他	3	-	-	-	3
計	111	53	1	8	173

広報・情報発信

情報発信手段と頻度

記者会見	103 回
記事	5,000 本以上
ラジオ・テレビ報道	2,000 件
パートナー放送局によるTV放送	40 時間
録画(担当3名)	60 時間
写真(担当4名)	35,000 枚
専用ウェブサイト	2 サイト

サイト閲覧

期 間	オリンピック		パラリンピック	
	閲覧者数	閲覧頁数	閲覧者数	閲覧頁数
2003年	236,484	2,254,183	—	—
2004年	1,113,785	2,137,074	42,894	78,014
2005年	2,299,076	14,351,985	129,375	640,712
2006年(～3月31日)	30,537,549	774,644,133	728,853	6,715,875

教育・文化プログラム

《カルチャー・オリンピック》

実施イベント数	200 回
参加者	1,000,000 人

*チケットを完売

《教育プログラム》

教育キット配布	13,263 セット
訓練を受けた教員数	600 人
プロジェクト数	25 プロジェクト
関与した生徒数(イタリア)	600,000 人以上
関与した生徒数(海外)	6,200 人
生徒と教師の会合	30,000 回以上
選手、報道関係者などへのポスター配布	5,000 枚
絵葉書配布	400,000 枚

その他

ボランティアの数・応募状況・トレーニング

オリンピックボランティア	18,000人以上	※55カ国から応募
パラリンピックボランティア	2,295人	
応募総数	41,500人	
一般訓練実施延べ回数	58回	
特別訓練実施延べ回数	500回以上	
トレーニングマニュアル配布数	42,000冊	

雇用スタッフ数

時期(時点)	人数
2003/12/31	424人
2004/12/31	837人
2005/12/31	1,476人
2006/2/28	2,020人
2006/4/1	585人

食事

食

会場別	選手	スタッフ・ボランティア	オリンピック・ファミリー	スポンサー	計
マウンテン・競技関連施設(選手村除く)	32,000	135,000	21,400	5,400	193,800
シティー・競技関連施設(選手村除く)	30,500	100,000	32,000	1,800	164,300
マウンテン・選手村	123,000	70,500			193,500
トリノ・選手村	105,000	40,000			145,000
計	290,500	345,500	53,400	7,200	696,600

*ワイン30000本以上、ソフトドリンク120万リットル以上を消費

テレビ放映

生中継	1,000時間
テレビカメラ	400台
視聴国	130国

その他の数字

パラリンピック関連

開会式観客	25,000人
開会式チケット販売数	25,628枚
閉会式観客	30,000人以上
メダル数	174個
ボランティア数	2,295人
IOC、各国パラリンピック委員会、競技団体など	1,534人
報道・通信社、カメラマン	711人
ラジオ、テレビ関係者	341人

オリンピック関連

有給スタッフ	2,700人
IOC、各国オリンピック委員会、競技団体、審判など	5,300人
トリノ五輪組織委員会	2,500人

VANOC:バンクーバーオリンピック組織委員会

《オリンピック》

開催期間	2010/2/12/28 17日間
競技	7 競技
	15 種別
	86 種目
参加選手	2,632 人
参加大会役員	4,868 人
参加国・地域 NOC数	82

※国・地域のオリンピック委員会

《パラリンピック》

開催期間	2010/3/12-21 10日間
競技	5 競技
参加選手	506 人
参加大会役員	630 人
参加国・地域 NOC数	44

※国・地域のオリンピック委員会

聖火リレー

国内距離	45,000 km
聖火ランナー	12,000 人

《その他数字で見るオリンピック》

スタッフ(ボランティア、業者含む)	50,000 人
アクレディテーション(証明書)発行	96428 件
TV視聴	35億 人
放送したTV局	300 局
放送したウェブサイト	100 サイト
TV放映延べ時間	24,000 h
文化オリンピアド観客	580万 人
公式サイト訪問数(延べ)	2.75 億
ツイッターのフォロワー	14,000 人
オフィシャルガイドのダウンロード	125 万
facebookファン	110 万

《その他数字で見るパラリンピック》

スタッフ(ボランティア、業者含む)	9,800 人
アクレディテーション(証明書)発行	26,931 人分

《運営費》

収入 160,546 百万円

百万円

収入内訳		金額
IOC助成		40,879
IOC国際スポンサーシップ		14,789
内訳	キャッシュ	3,110
	VIK(物品・サービス)	11,679
国内スポンサー収入		62,217
内訳	キャッシュ	36,762
	VIK(物品・サービス)	25,455
チケット収入		22,961
内訳	オリンピック	22,184
	パラリンピック	475
	文化オリンピアド	182
	プレ・イベント	120
ライセンス料、商品化		4,654
政府助成		16,002
内訳	カナダ政府	6,340
	ブリティッシュ・コロンビア	9,663
大会前イベント、資産売却、広告、宿泊予約サービスなど		14,959
小計		292,431
販売権料分配		-15,914
計		160,546

※この他、IOC助成追加分約503百万円が遅れて支払われる

※販売権料は、開催都市、IOC、COC(カナダ五輪委)との契約・合意に基づき、VANOC(組織委)がマーケティング収入の一部を分配する。(スポンサー収入、チケット収入、ライセンス料など)

支出 160,546 百万円

百万円

支出内訳		金額
マーケティング・広報		14,290
主な内訳	商業化権管理	3,826
	聖火リレー	2,982
	人件費	3,715
スポーツ・競技運営		24,538
主な内訳	施設管理	12,015
	スポーツ行事管理	6,817
	医療サービス	1,738
	人件費	3,962
サービス・競技運営		61,611
主な内訳	競技付帯設備管理	11,538
	選手村運営	4,780
	宿泊	4,942
	輸送	14,784
	資材調達	3,153
	文化オリンピアド	2,497
	式典	6,740
	用地取得等	3,869
	人件費	7,354
技 術		38,552
主な内訳	エネルギー関連	6,825
	計時、スコア、競技結果等	6,024
	電気通信	6,817
	競技管理システム	8,717
	AV機器サービス	1,696
	ハードウェア、ITシステム	5,079
	人件費	2,642
人事関連		11,074
主な内訳	人件費	4,380
財務		9,806
主な内訳	施設、設備	3,059
	人件費	3,374
為替差損		678
計		160,546

マーケティング (換算レート: C\$=85.2円、US\$=87.8円)

マーケティング収入 種別		百万円 金額
IOC助成		40,879
IOC国際スポンサーシップ		14,789
内訳	キャッシュ	3,110
	VIK	11,679
国内スポンサー収入		62,217
内訳	キャッシュ	36,762
	VIK	25,455
ライセンス料、商品化		4,654

※2010年以降、ホスト放送局の運営はIOCが行い、組織委員会に運営費を助成。
そのため、「IOC助成」が従来の放映権料+αに相当する

*VIK: 物品・サービス協賛

《スポンサー》

カテゴリー	獲得数	協賛金規模
ナショナル・パートナー tier 1	6	42.6~170.4億円
オフィシャル・パートナー tier 2	10	12.8~41.7億円
オフィシャル・サプライヤー tier 3	34	2.6~11.9億円
オフィシャル・メディア・サプライヤー	3	2.6~11.9億円の広告スペースを提供

※バンクーバー五輪組織委員会は85百万円以上規模の資金獲得プログラムを30以上実施
※スポンサーシッププログラムの成功は、早期着手による。例) tier 1は6年前に売り出し

《ライセンス(使用許諾)、商品化》

ライセンス許諾数	45 以上
----------	-------

公式グッズの販売店

オリンピック・スーパー・ストア	2万平方フィートの広さ
オリンピック・ストア	7 店
小売店	1,600 店以上
ハドソンズ・ベイ・カンパニー	400 店

マスコット販売数	260万 個以上
----------	----------

レッドミトン・キャンペーン(手袋)販売数	350万 ペア以上
----------------------	-----------

※先住民の製品を開発するライセンスも行い、売上の3分の1を
アボリジナル・ユース・レガシー基金へ
(先住民族の若者のスポーツと文化の発展を支援する活動)

チケット (換算レート: C\$=85.2円、US\$=87.8円)

発売枚数	154 万枚
売上枚数	149 万枚
売却率	96.8%
組織委収入	21,945 百万円

※IOCLレポートによる

《大会別チケット売上高》

オリンピック	22,184 百万円
パラリンピック	475 百万円

※VANOCLレポートによる

《チケット価格》

10万枚以上のチケットが、C\$25(約2,130円)

半分がC\$100(約8,520円)以下

《その他》

スーベニアチケット制作数	165 万枚
内訳	
オリンピック	150 万枚
パラリンピック	8 万枚
ドレスリハーサル	7 万枚

サーマルチケット制作数	98 万枚
内訳	
オリンピック	80 万枚
パラリンピック	18 万枚

チケットピン(マスコット+チケット)販売数	20,087 セット
内訳	
オリンピック	18,731 セット
パラリンピック	1,356 セット

記念ブック+チケットセット販売数	3,260 セット
------------------	-----------

*チケットが必要な170のセッションのうち、120で申し込み数が売り出し数を上回った

施設開発 (換算レート: C\$=85.2円、US\$=87.8円)

施設開発費 予算 51,409百万円

百万円

施設開発費 拠出元・収入別	金額
カナダ政府	24,711
ブリティッシュ・コロンビア州政府	24,711
スポンサー収入	1,006
内訳 IOC国際スポンサー-VIK	120
国内スポンサー-VIK	886
インターネット他	981
計	51,409

*VIK: 物品・サービス協賛

施設開発費 支出 51,405百万円

競技施設 支出

人

百万円

競技施設	競技	収容	分類	開発費	備考
サイプレス・マウンテン	フリースタイルスキー、スノーボード	12,000	新	1,499	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が資金提供に合意
バンクーバー・オリンピック/ パラリンピック・センター	カーリング	5,600	新	3,527	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が左記金額を提供し、プロジェクト費用の差額はバンクーバー市が負担
パシフィック・コロシウム	フィギュア・スケート、ショートトラック	14,200	改	1,612	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が資金提供に合意
リッチモンド・オリンピック・オーバル	スピードスケート	7,600	新	5,426	リッチモンド市が費用の大部分を負担し、一部をカナダ政府、ブリティッシュ・コロンビア州が提供
UBC サンダーバード・アリーナ	アイスホッケー	6,800	新	3,256	ブリティッシュ・コロンビア大学が建設費差額分負担
ウイスラー・クリークサイド	アルペン(ダウンヒル、大回転、回転、スーパー複合、スーパーG)	7,700	新	2,668	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が資金提供
ウイスラー・オリンピック/ パラリンピック・パーク	バイアスロン、クロスカントリー、ノルディック複合、ジャンプ	12,000/ea.	新	10,436	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が資金提供 GOT*経由
ウイスラー・スライディング・センター	ボブスレー、スケルトン、リュージュ	12,000	新	8,941	カナダ政府とブリティッシュ・コロンビア州が資金提供
カナダ・ホッケー・プレース	アイスホッケー	19,300	—	—	—
計				37,365	

*GOT: Games Operating Trust 大会運営トラスト

2003年にブリティッシュ・コロンビア州とカナダ政府が、ウイスラー・スライディング・センターやウイスラー・オリンピック・パラリンピック・センターの運営・維持の資金援助のために設立

*「分類」は、新:新規建設、改:既存施設を改築、既:既存施設

*「—」は記載なし

非競技施設 支出

百万円

非競技施設	分類	開発費
トレーニング施設	—	443
選手村(バンクーバー)	新	2,556
ウイスラー・アスリート・センター	—	4,926
ウイスラー・メディア・センター	—	256
選手村(ウイスラー)	新	3,195
BC プレース	改	1,031
VANOC本部	—	—
計		12,407

施設開発費 支出 その他合計

百万円

競技施設・非競技施設 支出 計		49,772
その他 支出	施設一般経費	1,334
	利子・割賦割増金	299
合計		51,405

宿泊

《確保した部屋数》

大会別	室	
	バンクーバー	ウィスラー
オリンピック	12,033	2,959
パラリンピック	151	544

ホテル・アパート・一軒家・その他宿泊施設契約数	275 件
クライアントとの宿泊割り当て合意	972 件

《選手村》

大会別	滞在者数	
	バンクーバー	ウィスラー
オリンピック	2,730	2,850
パラリンピック	350	1,200

※53日間運営

輸送

車両数	オリンピック	4,629 台
	パラリンピック	1,500 台

バス、バンなど台数	オリンピック	1259 台
	パラリンピック	277 台

アクセス・駐車許可の申請	オリンピック	25,851 件
	パラリンピック	10,891 件

通行許可発行数	50,209 件
---------	----------

対象者の車両予約件数	3,649 件
------------	---------

バス、車両で使用した燃料	9,704,537 リットル
--------------	----------------

《その他》

公共交通機関の充実を背景に、期間中の自動車の使用を30%を減らす目標を設定
実際に1日平均35%車の使用が期間中減った

メトロ利用者(1日の延べ利用者数平均)

通常	730,000 人
大会期間中	1,500,000 人

BC Transit(公共交通機関)は通常の冬期間の5倍の利用

医療

ボランティア	803 人
--------	-------

救急車	44 台
ヘリコプター	2 機

オリンピックで初めてカイロプラクティック・サービス提供

ドーピング・コントロール

ドーピングステーション	14 カ所
-------------	-------

実施件数

オリンピック	2,000 件
パラリンピック	425 件

広報

関連部門別活動トピックス

《Brand and Creative Services (ブランド)》

実施した独自プロジェクト(4年間)	2,000 以上
全国キャンペーン(3年間)	12
地域キャンペーン(3年間)	11
スタッフ2名で作成したビデオ本数(4年間)	29 本
広告制作	357 本

《Communications (通信)》

マスコットの生出演(登場)回数	800 回以上
カウントダウンイベント	20 回
6本の商業広告の編集による収益	85 百万円以上
2005-2009年でのプレスリリース	645 回

《Licensing and Merchadising (ライセンスング、商用)》

ライセンスング収益目標	4,857 百万円
その他収益目標	349 百万円
聖火	310 百万円
スタッフストア	65 百万円
記念品オークション	35 百万円
レッドミトン売上 (350万セット)	1,193 百万円

《その他》

バンクーバー・オークション・サイ

五輪史上初めて、競技の中で使われ、欲しがる人が多いアイテムを一般に販売
メダル授与の台や、アイスホッケーのパック、スキーのゲート、など

警備

V2010ISU (バンクーバー2010統合セキュリティユニット) を組織
the Vancouver 2010 Integrated Security Unit

《協力機関と人数》

オリンピック

警察機関(州、自治体、先住民)180機関	1,700人以上	
RCMP 王立カナダ騎馬警察	4,000人以上	
カナダ軍	4,800人	
民間警備会社	4,800人	施設でのスクリーニング対応

パラリンピック

警察	750人
カナダ軍	500人

《その他》

磁気計購入台数	1320台
---------	-------

メディア

放送メディア	7,000 人
プレス(放送以外の報道)	3,286 人

《メインメディアセンター》

国際メディアセンター(IBC)

テレビ・ラジオ中継関係者(約7,000人)が利用
(広さ:46450㎡)

メインプレスセンター(MPC)

記述記事ライター、写真カメラマン約2,800人が利用
(IBCに隣接、既設のコンベンションセンター利用)

ウィスラーメディアセンター(WMC)

公式ブロードキャスターのウィスラー基地
全てのウィスラーの競技場から17km以内

《担当部門トピックス》

放送

放映権取得放送会社	20 社(90カ国)	
放送センター	バンクーバー	31,000 ㎡
	ウィスラー	3,000 ㎡
生放送	900 時間以上	
出演者サポートスタッフ	7,000 人以上	

プレス(放送以外の報道)

ア krediteーション(証明書)を受けたプレス関係者	オリンピック	2,803 人
	パラリンピック	483 人
メインプレスセンターのプライベートオフィス数		44 カ所
プレス向け出版物		13 冊
info2010で発信した情報数(英仏語)		5,479 件

ファンクション（部門）

バンクーバー五輪組織委員会は機能別に52の「ファンクション」
以下、レポート内の各ファンクションに関するトピック。別の項目で既出のものはファンクション名のみ。

Aboriginal participation (先住民参加)

Accommodation (宿泊)

Accreditation (登録)

128,988人 オリンピックの入場資格認定申請
96,428人 登録

44,588人 パラリンピックの入場資格認定申請
26,931人 登録

Administration (管理)

バンクーバー本部 200,000平方フィート 2000人
ウィスラー本部 4,500平方フィート 42人(最大)

Anti-Doping (ドーピング)

Brand and Creative Services (ブランド)

Broadcast Integration (放送)

Ceremonies (式典)

30億人 が開会式を視聴
2,050人 のボランティア(18-80歳)が開会式に関与し、1日4時間以上、21日間練習

Commercial Rights Management (商業権管理)

3,250件を取り扱い、98%解決済み。2%も最小限の商業権侵害に留められる模様。
5,500件のスポーツやアスリートの肖像の事例を処理
約185のマーク、約420のドメイン名を登録
約35,000の偽造を発見
約20%が解決に弁護士を要したが、主にフォローアップのやりとりに対してで、法的手続きをとったのは6件

Communications (広報)

Corporate Strategy and Partner Relations (企業戦略、パートナー)

Cultural Olympiad (文化プログラム)

Event Services (イベント・サービス 警備誘導など)

497人 イベントスタッフ
4,445人 ボランティア

Finance (財務)

Food and Beverage (飲食)

120万食 関係者食事(式典、輸送含む)
8,500食 競技場での選手の食事
25,650食 オリンピック・ファミリー食
25万食 業者食事
200万本 ダサニ水(コカコーラ社)

Government Service Integration (政府サービス)

International Client Services (国際クライアントサービス)

940人 ボランティア(オリンピック)
358人 ボランティア(パラリンピック)

Internet Management (インターネット管理)

Legal (法務)

Licensing and Merchadising (ライセンス、商用)

Logistics (物流)

約9.4億円 資産処分益

Look of the Games (大会イメージ)

Medical Services (医療)

NOC/NPC Services (オリンピック委員会と組織委員会の連絡)

786人 ボランティア

Official Languages (公用言語対応)

Olympic and Paralympic Villages (選手村)

Overlay (大会用インフラ担当)

約77億円相当 の物品契約

Paralympic Planning (パラリンピック企画)

30,000枚 インスピレーション・プログラムに基づく学校等へのチケット配布

Press Operations (報道)

Procurement (調達)

約1351億円 合計購入額(1契約平均3900万円)

Project and Information Management (プロジェクト、情報管理)

Risk Management and Assurance Services (危機管理)

Security Integration (セキュリティ)

Snow Removal, Cleaning and Waste (除雪、清掃、廃棄)

Sponsorship Sales and Servicing (スポンサー関連)

Sport (競技)

2.6億円以上 競技設備の補充管理
4,000人 ボランティア

Sustainability (持続可能性)

Technology (技術)

Ticketing (入場券)

Torch Relay (聖火リレー)

Transportation (輸送)

Venue Construction (建設)

Venue Management (競技開催地会場管理)

212人 ボランティア

Workforce (労働力)

誘致の道のり

《当初コンセプト》

施設が国際大会の基準に合うだけでなく、将来カナダのアスリートのためのレガシーになるように。パラリンピックの計画に際し、公共交通機関が100%利用できるように。

新規または既存の会場へのアクセス改善予算 161.9百万円

国内の誘致活動では、852百万円の予算で、オリンピックとは別組織での活動を提案

候補ファイルでは、38日間の1大会2イベントの考え方

全ての会場が車で10～20分の距離

パラリンピック選手村(ウイスラー)については、公共施設として残されるように。

216室の半分が身体障害者用の設計

アスリートのトレーニングや、将来のワールドカップなどの宿泊施設となるように

《経緯》

1999/6/11 バンクーバー・ウイスラー2010年誘致会社(非営利)設立

カナダオリンピック委員会

ブリティッシュ・コロンビア州

バンクーバー市

RMOW ウイスラー・リゾートミュニシパリティ

バンクーバー市がこの組織に企画と資金集め活動のため 約2600万円 を融資

2000/3 誘致スポンサー登録開始
160の企業・個人から 1,023 百万円(cash/VIK)

2002/2 The Vancouver 2010 Bid Corporation
バンクーバー2010誘致会社 に名称変更(IOC規定による)

サステナビリティ3本の柱
(継続可能性)

環境管理
経済機会
社会的責任

2002/3 バンクーバー市の承認
カナダ政府と資金合意
775百万円

2002/5/31 IOCの候補都市質問書に回答提出

2002/6/7 カナダ政府およびブリティッシュ・コロンビア州が、バンクーバーが開催地に決定した場合
主な競技への資金提供を約束
約528億円

2002/11/14 MPA 多者間合意書
カナダ政府、ブリティッシュ・コロンビア州、バンクーバー市、RMW、カナダオリンピック委員会、
カナダパラリンピック委員会、誘致会社

2002/11 スクアミッシュ、リルワット・ネーション、BC、誘致会社が、「共有レガシー合意書」に調印

2003/1/10 候補ファイル提出

IOCロゲ会長「市民の50%以上の支持が必要」→60～80%を示唆する

誘致の盛り上がり

誘致委員会のサイトから

3,200人が誘致活動支援に登録

27,000人が競技のボランティアに登録

2003/9/30 VANOCバンクーバー五輪組織委員会 法人化

サステナビリティ (継続可能性) (換算レート: C\$=85.2円、US\$=87.8円)

《インナー・シティ(低所得者地区)、ファースト・ネーション(先住民)》

Inner City(低所得者地区)の住人や、ファースト・ネーション地域にチケットを配布	50,000 枚
低所得地区の企業や組織へ仕事を発注	230 百万円
ファースト・ネーションの企業へ発注	196 百万円
期間中、シェルターを用意して、居住場所を確保	
先住民族の文化や芸術を式典やメダルのデザインなどに活用し、 使用許諾料を先住民ユースレガシー基金に寄付	17 百万円

《コミュニティーサポート》

Bellの後援を原資に、低所得地区の企業や住民に大会による経済機会をふりむけ	170 百万円
木工品の研修生が、11,300個の大会関係品(スキーラック、椅子など)の製造	196 百万円相当
調達品の発注を低所得地区の企業や住人に行った	486 百万円
自立支援(DV被害者など)プログラムを受けている女性たちが式典の花束製作	1,750 個
医療機器の地域資産寄付プログラム	307 百万円
バンクーバー市内の既存の地域ice areaをアップグレード	452 百万円
選手村施設などを大会後に低価格で提供 (バンクーバー:250戸、ウィスラー:1000ベッド、その他BC内156個)	5,198 百万円相当
若者向けのシェルターのベッド32個を寄付	21 百万円
160万人の入場券所有者や5万人のスタッフに会場までの公共交通を無料で提供	

《先住民》

先住民の企業に経済的機会を提供(2003年からの合計)	5,027 百万円
先住民選手のポスターを全国に配布	120,000 枚
Bellのスポンサーシップの中から、ウィスラーの常設スクアミッシュ・リルワット文化センターに	256 百万円
2008年以降、ライセンス製品の販売益から先住民のユース・レガシープログラムに寄付	16 百万円
バンクーバーに先住民パビリオンを建設、大会後はマスキーム・ネーションの常設施設に	298 百万円
Buy Smart契約528件(五輪委全契約の約95%)	23,603 百万円相当

《バンクーバー2010 サステナビリティ・スター・プログラム》

Bellがスクアミッシュとリルワット文化センターに寄付	256 百万円
Bellがバンクーバー合意に寄付	128 百万円
Coca Cola社の「アクティブ・リビング」プログラム	426 百万円
Jet Set SportsがCelebrate 2010プログラムに寄付(低所得地区の住人などにチケットを配布)	85 百万円
ミレニアム・ウォーターとバンクーバー市とのコミュニティーに利益をもたらす合意で、 訓練と雇用支援のために割り当て	64 百万円
低所得地域の企業に、補給物資受注のチャンスを与えるための割り当て	1,278 百万円
バンクーバー2010ブランドの商品売上目標(グロス小売販売閉会までに達成)	42,606 百万円

その他 (換算レート:C\$=85.2円)

VANOCワークフォース

雇用	3,500 人
ボランティア	25,000 人

ボランティア

期間	人	
	オリンピック	パラリンピック
2006～	183	
2007～	435	
2008～	750	
2009～10	17,273	6,500

2010/2時点

*25,000の募集に対し、60,000の応募

*28,000人が面接を受けた(報告期間中)

環境

オリンピック・パラリンピック初のカーボン・オフセットスポンサーシップにより、
直接オフセットしたカーボン・フットプリント 118,000トン

先住民参加

○スクアミッシュ、リルワット、誘致組織、ブリティッシュ・コロンビア州との間でレガシー合意
 ・州が経済発展のために、300エーカーの土地を寄付
 ・196百万円 技術および訓練に
 ・43百万円 ネーミングおよび認知プロジェクトに
 ・256百万円 スクアミッシュおよびリルワットの文化センターに寄付
 ・554百万円 レガシー・ハウジングに
 ・4,261百万円以上 機会創出契約(ノルディック会場建設など)に

○約256百万円 先住民青年スポーツレガシー基金へ

○マスキーム族、ツレイルワスス族と誘致組織との覚書により
 ・43百万円 組織委より寄付
 ・1,704百万円 カナダ政府から寄付

○5,027百万円 先住民族ビジネスの機会創出契約による(300社参加)

○118の先住民族コミュニティが聖火リレーコースに含まれ、
600人以上の先住民が聖火リレーに参加

○期間中、2010年先住民ユース大会が16日間開催され、開会式でもパフォーマンス

先住民族パビリオン

パフォーマンス	232 回
見学者	215,000 人
報道	290 社

大会後はマスキーム・ネーションの常設施設として利用